

改訂レッドリスト
付属説明資料

植物 I

(維管束植物)

平成 22 年 3 月

環境省自然環境局野生生物課

はじめに

「付属説明資料」は、平成18年12月及び平成19年8月に公表された改訂版レッドリストにおいて新規に掲載された種を基本に、それらの生息・生育状況等を簡潔に解説したもので、本冊子は、その「植物Ⅰ（維管束植物）」版です。

すでに刊行されているレッドデータブックと合わせて、絶滅のおそれのある野生生物の保護を進めていくための基礎的な資料として広く活用されることが望まれます。

改訂レッドリストの詳細については、以下のwebページを参照してください。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8886>

掲載種と解説内容

平成19年8月3日に公表された植物Ⅰ改訂レッドリストに掲載された維管束植物2,018分類群（種・亜種・変種等）のなかから、同リストにおいて新規に掲載された分類群及び従来のNT、DDから今回VU以上へ変更された分類群計246分類群について、以下の内容を簡潔に解説しました。なお、記載内容は原則としてレッドリスト公表時のものです。

- カテゴリー区分（新ランク及び「新規掲載」等の表記）
- 科名
- 和名
- 学名
- 形態と生育環境
- 判定理由と判定基準
- 現存株数別メッシュ数

「形態と生育環境」は以下の文献から引用しました。これらの文献からは情報が得られなかった分類群については、原記載論文等を参照しました。

- ・佐竹義輔ら、日本の野生植物。平凡社。
- ・豊田武司編、小笠原植物図譜。アボック社出版局。
- ・各都道府県版レッドデータブック

「判定基準」は、カテゴリーを判定するための数値基準A～Eを指します。植物レッドリストでは、1) E基準による絶滅確率に基づく判定、2) ACD基準による定量的判定、3) A、CまたはDの各基準による準定量的判定の3つの方法が併用されています。詳細は、『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物Ⅰ（維管束植物）』（環境庁編、2000）を参照してください。

「現存株数別メッシュ数」は、原則として2次メッシュ（約10km四方）の数を示していますが、一部の種で3次メッシュ（約1km四方）の数を示しており、その場合は※印を付してその旨、記しました。また、「未発見」は現地へ確認に行ったが発見できなかったメッシュ数を、「不明」は現地へ確認に行けなかったメッシュ数を示しています。

執筆

執筆は、日本植物分類学会絶滅危惧植物問題検討第一専門委員会にお願いしました。

今後の対応

環境省では、レッドリストや本冊子について広く普及を図ることで、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存への国民の理解を深めるとともに、関係省庁や地方公共団体等に配布することにより各種計画における配慮等を促す予定です。

また、レッドリストの掲載種の中で特に保護の優先度が高い種については、さらに生息・生育状況等に関する詳細な調査の実施等により情報収集を行い、その結果及び生息・生育地域の自然的・社会的状況に応じて「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種に指定する等、必要な保護措置を検討します。

なお、レッドリストは、今後とも、5年ないし10年ごとに再調査と見直しを行う必要があるものと考えられます。

環境省自然環境局野生生物課

マメ科
サガミメドハギ *Lespedeza hisauchii* EX(絶滅)[新規掲載]

形態と生育環境
海岸沿いに生育していたと推定される落葉小低木。葉の上面に短伏毛が生え、小葉の側脈が不明瞭である。葉柄に対する葉軸の相対長がより短いこと、1花序当たりの花数が4-8と少ないこと、小苞が萼筒とほぼ同長で、萼は花冠の長さの約半分であること、萼裂片が狭三角形で頂萼裂片の切れ込みが萼裂片の長さの半分より短いこと、翼弁が竜骨弁とほぼ同長であること、花序の特に小花柄に多細胞からなる腺毛をもつことが特徴。

判定理由 <判定基準：->
1930年代に神奈川県平塚・葉山、東京都蒲田で採集された後は見つからないことから、絶滅と判断。

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ゴマノハグサ科
マツラコゴメグサ *Euphrasia insignis* subsp. *insignis* var. *pubigera* EX(絶滅)[←DD]

形態と生育環境
1年草。茎は高さ6-12cm、白短毛がある。トガクシコゴメグサ (*E. i.* subsp. *i.* var. *togakusienensis*) に似るが、鋸歯に鋭頭の歯牙がある。萼は長さ4mmほどで、花冠長は萼のほぼ2倍。

判定理由 <判定基準：->
1922年に奈良県大台ヶ原で採集された標本記録のみで、それ以降の情報はなく、絶滅と判断。

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

ゴマノハグサ科
クモイコゴメグサ *Euphrasia multifolia* var. *kirisimana* EX(絶滅)[新規掲載]

形態と生育環境
ツクシコゴメグサ (*E. multifolia*) の変種。葉の鋸歯が尖る。霧島山固有。

判定理由 <判定基準：->
自生地では強度のシカ食害を被り、約12年間の継続調査において再確認できないことから、絶滅と判断。

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

ヒナノシヤクジョウ科
ミドリシヤクジョウ *Burmanna coelestris* EX(絶滅)[←DD]

形態と生育環境
日が当たる場所に生育する。長さ1-2cmの緑色の線形葉をもち、腐性植物ではない。花は淡青色で、花筒に著しい翼がある。

判定理由 <判定基準：->
1950年代に西表島干立の畦畔で採集されたが、その後の調査で自生地をくまなく探しても見つからないため、絶滅と判断。

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
タチガヤツリ

EX(絶滅)[←DD]

Cyperus diaphanus

形態と生育環境

湿地に生育する。カワラスガナ (*C. sanguinolentus*) に似るが、果の表面が平滑ではなく、細かい横の波状の線がある点で区別される。

判定理由 <判定基準：->

1930年代の標本記録以後は確認されず、絶滅と判断。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
イシガキイトテンツキ

EX(絶滅)[←DD]

Fimbristylis pauciflora

形態と生育環境

山地などの湿地に生える常緑の多年草。根茎を欠く。稈は密に束生し、高さ5-20cm、糸管状。葉は通常葉身を欠き、時に針状の葉身があり、葉鞘は少数、長さ1-3cm。花序は1個の小穂を頂生し、苞は狭披針形、小穂は長楕円状楕円形～披針状長楕円形、長さ4-6mm、幅1-1.2mm、3-4花をつけ、鱗片は披針状長楕円形、前縁、鈍頭、らせん状につき、少数、長さ2.8-3mm、幅1-1.2mm、柱頭は3個。瘦果は全卵形、長さ0.7-0.8mm、幅0.5mm、表面に小じわがある。

判定理由 <判定基準：->

石垣島で採集されたが、その後の懸命な探索にもかかわらず見つからない。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

ホングウシダ科
ヤエヤマホラシノブ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Sphenomeris yaeyamensis

形態と生育環境

山地林下の溪流沿いに生える。葉柄は葉身とほぼ同長かやや短く、葉柄基部の鱗片は2-4mm、葉身は厚い。2n=194。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

10株未満2メッシュが現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

オンダ科
アタシカカナワラビ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Arachniodes oohorae

形態と生育環境

スギ林の林床に生育する。ホソバカナワラビ (*A. aristata*) に似るが、各羽片はコバノカナワラビ (*A. sporadosora*) 並に幅が広い。葉は4回(中部では3回)羽状複葉で小羽片まで柄がはっきりし、羽片、小羽片ともに込み合っている。孢子囊群はごく小さく、辺縁近くにつく。近畿地方に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

50株未満1メッシュが現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

オシダ科

キリシマイワヘゴ

CR(絶滅危惧IA類) [←NT]

Dryopteris hangchowensis

形態と生育環境

ワカナシダ (*D. kuratae*) に似るが、葉は革質で、葉面も軸も緑っぽく、鱗片の形状も異なる。四国に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

4メッシュのうち、3メッシュで絶滅、残りは1メッシュ10株未満が現存。シカの食害や園芸採取によって宮崎県の個体群は絶滅した。

オシダ科

マルバヌカイタチシダモドキ

CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]

Dryopteris tsugiwoi

形態と生育環境

低山地の林床に生える常緑性のシダ植物。葉柄にはやや密に鱗片があり、鱗片は披針形～線状披針形、全縁、茶色～黒褐色。葉身は三角状長卵形、長さ40cm以上、羽片は中軸に直角につき、柄は短い。孢子嚢群は小羽軸に沿って並ぶ。紀伊半島、四国、九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

判定理由 <判定基準 : D>

7メッシュのうち、2メッシュが現状不明、5メッシュで現存、計50株未満と推定される。

イラクサ科

トウカテンソウ

CR(絶滅危惧IA類) [←DD]

Nanocnide pilosa

形態と生育環境

路傍の林床に生育する常緑的な多年草。九州南部に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : C>

100株未満1メッシュが現存。人家近くに生育し、今後は減少する可能性が高いため、CRと判定。

ツチトリモチ科

ユワンツチトリモチ

CR(絶滅危惧IA類) [←NT]

Balanophora yuwanensis

形態と生育環境

山地の常緑樹林の林床に生える橙褐色の寄生植物。奄美大島に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

2メッシュに計50株未満が現存。減少原因は森林伐採、自然遷移。

※メッシュは3次メッシュ

ナデシコ科
トカチビランジ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Silene tokachiensis

形態と生育環境

高山の岩場の隙間に生育する多年草。スガワラビランジ(*S. stenophylla*) (シベリアの北極地方に分布)に似るが、萼筒が壺形になり、前年度以前の葉柄の基部が鞘状になり、かつ硬化して宿存することはない、花弁基部の基部につく小鱗片が楕円形で長さ約1mmと小型で、花が點頭して咲くなどの点で区別される。北海道に分布する。従来北海道産のスガワラビランジとされていた集団はトカチビランジであり、スガワラビランジは日本には分布しない。

判定理由 <判定基準 : D>

今回の調査では生育情報が得られなかったため、前回のスガワラビランジとしての判定を踏襲。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

アカザ科
ミドリアカザ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Chenopodium bryoniifolium

形態と生育環境

山野に生える1年草。直立し、高さ60cm。葉は長い柄があり、三角状卵形、菱状卵形、卵状楕円形、縁に歯牙があり、長さ3-5cm。花序はまばらに出て、萼は5深裂し、裂片は卵形、長さ1mm。胞果は水平でレンズ形。本州、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

8メッシュのうち、5メッシュに計100株未満が現存、2メッシュが未発見、1メッシュが現状不明。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	2
不明	1

キンポウゲ科
イイデトリカブト

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Aconitum iidemontanum

形態と生育環境

サンヨウブシ(*A. sanyoense*)に似るが、花梗に開出毛が生えること、円筒状の僧帽形で嘴の短い上萼片をもつ点で異なる。本州北部に分布する。

判定理由 <判定基準 : C>

2メッシュの推定現存株数は100株未満。生育地の土壌崩壊で減少しており、自然遷移や園芸採取による減少のおそれもある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンポウゲ科
イヤリトリカブト

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Aconitum japonicum subsp. *maritimum* var. *iyariense*

形態と生育環境

湿地に生育する多年草。越年生の塊根を持つ。枝はつる状。葉は3全裂~深裂し、裂片は粗く欠刻し、鋸歯状。花柄には曲がった毛がある。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

2メッシュのうち、1メッシュ50株未満が現存、1メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

キンボウゲ科
イシツチカラマツ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Thalictrum minus var. *yamamotoi*

形態と生育環境

アキカラマツ (*T. m.* var. *hypoleucum*) に似るが、高さが低く、小葉の形が異なること、葉の表裏ならびに果実に細かい腺点があるなどの点が異なる。四国の石鎚山に分布する。

判定理由 <判定基準: ACD>

50株未満2メッシュが現存。減少原因は踏みつけや動物食害。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

スイレン科
シモツケコウホネ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Nuphar submersa

形態と生育環境

沈水植物。狭い長方形～三角形の葉をもつ。浮葉を形成しない。葯と果実の色からコウホネ (*N. japonica*) やオグラコウホネ (*N. oguraensis*) から区別される。関東地方に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

今回の調査ではデータが得られなかったが、50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ウマノスズクサ科
スエヒロアオイ

CR(絶滅危惧IA類)[←DD]

Asarum takaoi var. *dilatatum*

形態と生育環境

ヒメカンアオイ (*A. t.* var. *takaoi*) の変種。萼筒が深い皿形になり、先が開く。近畿地方に分布する。

判定理由 <判定基準: E>

1メッシュ100株未満が現存。道路工事によって個体群が減少。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

ユキノシタ科
ヤエヤマヒメウツギ

CR(絶滅危惧IA類)[←NT]

Deutzia yaeyamensis

形態と生育環境

断崖に生える落葉低木。高さ1m、枝は褐色をおび、無毛。葉柄は長さ4-10mm、星状毛を散生。葉身は広楕円形、長さ5-13cm、幅2.5-6cm、表面には星状毛と単毛を散生し、裏面は淡緑色で、脈上を除き無毛。花糸の翼の上端に歯がない。若い枝と花序には星状毛が散生する。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

4メッシュ計50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

バラ科
ホシザクラ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Prunus tamaclivorum

形態と生育環境

ヤブザクラ (*P. hisauchiana*) に似るが、葉縁の大きな鋸歯は三角形で、葉縁に毛が散生すること、萼は紅紫色で、筒部は細長く長さ6.5-7.2mm、幅3.1-3.3mm、萼片はほぼ全縁か不明瞭な低い1-6個の鋸歯があるのみで、辺縁がやや内側に巻き込むため三角形に見えること、花柱下部に15-30本の斜上毛があること、花弁は楕円形～長楕円形で平開せず、縁が多少内側に巻き込むことなどの点で異なっている。3倍体であり、果実はまれにしか成熟せず、根に生じる不定芽によって繁殖する。東京都に分布する。

判定理由 <判定基準：C>

1メッシュ100株未満が現存。被陰で減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

バラ科
ミチノクナシ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Pyrus ussuriensis

形態と生育環境

低山地に生える落葉高木。高さ15mに達する。葉は卵状楕円形または広卵形、葉の縁には芒状に伸びた鋭鋸歯がある。花は白色、花柱は5個で離生し、基部に軟毛がある。果実は球形、扁球形、褐色に熟し、果頂に萼片が残存する。最近の研究から、本種の野生個体の現在の確実な分布域は北上山地に限られ、小形の葉（葉身は長さ10cm以下）と果実（長さ3cm以下）をもつことが特色。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

1メッシュ50株未満が現存。生育場所は人家近くや牧場内。若木はみられず、更新が進んでいない。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

バラ科
チシマイチゴ

CR(絶滅危惧IA類)[←DD]

Rubus arcticus

形態と生育環境

高山の湿った草原に生える高さ5-25cmの草本状低木。3小葉からなる葉と茎には、若いときは毛があるが、大きくなるにつれてなくなっていく。花期は6-7月で、上向きにつく花はがく裂片と花弁が5-9枚、淡い紅色。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

3メッシュのうち、1メッシュで絶滅、2メッシュで現存し、計約100株。北海道の道東地域の湿地にも生育している可能性があるが、未調査。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

マメ科
ボウコツルマメ

CR(絶滅危惧IA類)[←NT]

Glycine tabacina

形態と生育環境

海岸の断崖上の風衝草原および琉球石灰岩上に生える。やや小形の匍匐する性多年草。葉は3個の小葉からなる羽状複葉で、互生し、長い柄があり、小葉は長楕円状披針形～卵形、広楕円形または線形、茎下部のものは広倒卵形、長さ1-4cm、幅4-10mm、脈は明瞭。9月頃、葉腋に出る総状花序は直立し、4-12個の花をつける。花は青紫色～紅紫色。沖縄県に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

3メッシュのうち2メッシュで現状不明、残る1メッシュで2001年以前に50株未満が確認されたが、それ以後の調査では現存を確認できていない。しかし、現存の可能性を考慮してCRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

フウソウ科
ヤクシマフウロ

CR(絶滅危惧IA類) [←NT]

Geranium shikokianum var. *yoshiianum*

形態と生育環境

イヨフウロ (*G. shikokianum*) の変種であり、全体が小さく、葉身の幅が1-2cmで、花は径約2cmである。屋久島固有。

判定理由 <判定基準 : D>

2メッシュに計50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

アマ科
マツバニンジン

CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]

Linum stelleroides

形態と生育環境

日当たりのよい草地に生える。高さ40-60cm。全体無毛。葉は互生し、狭長楕円形で、長さ1-3cm、幅2-4mm、3脈あり、柄はない。花は淡紫色で、径約1cm、花弁は広倒卵形、長さ5-6mm。さく果は球形で、径3-4mm。北海道~九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

15メッシュのうち、2メッシュに計50株未満が現存、9メッシュが絶滅あるいは未発見、4メッシュが現状不明。主な減少原因は土地造成、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	4
未発見	5
不明	4

トウダイグサ科
テリハニシキソウ

CR(絶滅危惧IA類) [←DD]

Chamaesyce hirta var. *glaberrima*

形態と生育環境

シマニシキソウ (*C. hirta*) の変種であり、全株無毛。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

2メッシュのうち、1メッシュ50株未満が現存、1メッシュが現状不明。減少原因は動物食害。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

※メッシュは3次メッシュ

トウダイグサ科
アマミナツトウダイ

CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]

Euphorbia sieboldiana var. *amamiana*

形態と生育環境

林縁や路傍に生える夏緑性多年草。オオスマナツトウダイ (*E. sieboldiana*) に似るが、4倍体である点で異なる。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

2メッシュのうち、1メッシュが絶滅。現在は、1つの自生地において10株未満が現存するのみ。この自生地においても株数が減少傾向にあり、今後の保全対策が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

トウダイグサ科
ドナンコバンノキ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Phyllanthus oligospermus subsp. *donanensis*

形態と生育環境

常緑樹林の林縁に生える高さ1.5-2mの落葉低木。葉は互生、無毛で、小枝に10-18個つき、葉身は楕円形、長さ2-5cm、幅1.3-2.7cm。雌雄同株で、9月-1月、葉腋に数-10花を束生する。雄花は葉腋に5-7個つき、萼片は4-5、楕円形、長さ1.8-2mm、黄緑色、雄蕊は(2-)3-4本。雌花は葉腋に1-3個、萼片は4-5個で早落性、楕円形、長さ1.4-2mm。果実は球形の液果で、直径7-8mm、暗赤色に熟し、小果柄は長さ2-4mmで先に行くにしたがって太くなる。種子は6個、半月三稜形で長さ約3mm、褐色。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

1メッシュ50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ミカン科
ホソバハマセンダン

CR(絶滅危惧IA類)[←DD]

Euodia ailanthifolia

形態と生育環境

山地の二次林や林縁に生える落葉高木。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準: ACD>

10メッシュ、50株未満が現存。主な減少原因は、道路工事、森林伐採。

現存株数別のメッシュ数

10未満	10
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

カエデ科
アマミカジカエデ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Acer amamiense

形態と生育環境

林縁に生育する木本。カジカエデ(*A. diabolicum*)に似るが、葉柄や葉の裏は殆ど無毛である。またカジカエデの果実には短い軟毛だけで、剛毛のない点異なる。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

1メッシュ10株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

クロタキカズラ科
ワダツミノキ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Nothapodytes amamianus

形態と生育環境

森林や林縁などに生育する約10mの木本。クサミズキ(*N. nimmonianus*)に似るが、葉の基部が、切形または心形であり、花卉長7-9mmと長く、小花柄は1mm未満、葯は2.5-3mmである点異なる。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準: ACD>

3メッシュに計20株程度が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

アオイ科
センカクトロアオイ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Abelmoschus moschatus var. *betulifolius*

形態と生育環境

海岸の低木林内に生える高さ1.5mになる直立する1年草。葉は互生して長柄があり卵状円形～卵形、長さは6-15cm、3-5(-多)裂する。花は大形で直径約10cm。花弁は5個、黄色で基部内面は紫色。果実は長楕円状卵形、長さ5-7cm、剛毛が密生する。魚釣島に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

かつて1メッシュ10株未満が確認されているが、現状は不明。ノヤギの食害によって絶滅した可能性があり、今後の調査が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

グミ科
タンゴグミ

CR(絶滅危惧IA類)[←DD]

Elaeagnus arakiana

形態と生育環境

蛇紋岩地に生える落葉低木。葉は、倒卵状楕円形、長さ3-6cm、やや厚く、表面はやや密に宿存性赤褐色鱗片があり、裏面は銀色の鱗片に褐色の鱗片が混生、葉柄は3-6mm。花は葉腋に1(まれに2)個つけ、萼筒は約7mm、内面は星状毛がなく、上面に星状毛がある。果実長10-12mm。近畿地方に分布する。

判定理由 <判定基準：ACD>

1メッシュ10株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

イイギリ科
コバノクスドイゲ

CR(絶滅危惧IA類)[←DD]

Xylosma senticosum

形態と生育環境

棘が多い常緑低木。枝は平滑、葉は、卵形～円形、長さ2-4cm、幅1.5-4cm、無毛で細鋸歯がある。葉柄長0.5cm。雄花は、腋生の長さ1-3cm総状花序につき、雄蕊は16-20個、3-4mm。雄蕊を持たない雌花のめしべは無毛。果実は球形、直径5mm、無毛で、花柱が残存する。

判定理由 <判定基準：D>

石垣島で30年ほど前に採集された標本記録があるものの、現在は見つからない。自生地は保護されており、現存の可能性があるのでCRと判定。魚釣島にも記録があるが、現状は不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	3

スミレ科
シロコスミレ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Viola lactiflora

形態と生育環境

コスミレ (*V. japonica*) とシロコスミレ (*V. patrini*) の中間的な形態を有するが、花が乳白色、側花弁は有毛、距は短く(長さ5mm、幅3mm)、花柱上部は中央部が隆起して柱頭部は短い、成葉は基部が広い耳形をした長三角形、などの点を特徴とする。草原などに生育。

判定理由 <判定基準：->

対馬の2か所に自生地があったが、1か所は消滅。もう1か所は現状不明。現存している可能性を考慮してCRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

ミソハギ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

ヒメキカシグサ

*Rotala elatinomorpha***形態と生育環境**

水辺に生える1年草。茎は地面をはい、高さ4-7cm。葉はまばらに対生し、薄くて頭卵状楕円形、長さ3-10mm、葉縁は透明にならない。花柱はほとんどない。雄蕊は2個。本州中南部、四国に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	1

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

3メッシュのうち、1メッシュ50株未満が現存、1メッシュが絶滅、1メッシュが現状不明。減少原因は池沼開発。

セリ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

カサモチ

*Nothosmyrnum japonicum***形態と生育環境**

高さ60-120cmの多年草。葉は2回羽状で裏面脈上にまばらに毛があり、縁には鋸歯があり、長さ3-6cm。総苞片および小総苞片は長楕円形でやや膜質。花序の周辺の花では花弁が少し大きくなる傾向がある。果実は広円形、長さ2mm、肋は細く、油管は多数ある。花期8-10月。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

今回の調査ではデータが得られなかったが、奈良県と三重県の県境に少数個体が現存。外来の可能性があり、今後の検討が必要。

セリ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

キイウマノミツバ

Sanicula lamelligera var. *wakayamensis***形態と生育環境**

ヒメウマノミツバ (*S. lamelligera*) の変種で、葉の側片が浅く切れる点で区別される。近畿地方に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

分布の限られるまれな植物で、現在は生育が確認できない。すでに絶滅した可能性もあるが、現存する可能性を考慮してCRとした。

イソマツ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

タイワンハマサジ

*Limonium sinense***形態と生育環境**

海岸の岩上に生える多年草。根生葉は倒卵状披針形で毛がなく、革質、全縁でしばしば波打ち、先は短突起があり、長さ2-23cm、幅0.4-5cm。根生葉の間から、高さ6-75cmの花茎を1-数本伸ばす。花茎はよく分枝して多数の小穂を集散状につける。イソマツ (*L. wrightii* var. *arbusculum*) と比べ、花茎が斜上する傾向が強く、より先端に小穂が集密する。花弁は黄色。萼筒は白色、高杯型で、縦方向に5本の肋が発達し、花後も花序上に宿存して種子を包む。果実は果皮が薄く、長さ3mm。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

1メッシュ10株未満が現存。自生地は保護されているので、現状は変わらないと推定される。

リンドウ科
ミヤコケリンドウ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Gentiana takushii

形態と生育環境

海岸の隆起サンゴ礁上に生育するごく小型の2年草。茎は単一または分枝し、乳頭状突起があり、高さ3.3-5cm、ロゼット葉を欠く。葉は対生し、無柄、卵形、長さ3-10mm、幅2-5mm、葉先は尖らない。花は各々の茎頂に単生し、萼は長さ4-6mm、筒形、花冠は青色、筒形、長さ6mm、5裂し、裂片の間に小裂片があり、小裂片の先は浅く2裂する。雄蕊は5個、長さ3mm。室果は長さ10mm。沖縄県に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ50株未満が現存。減少原因は海岸開発やゴルフ場開発。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ヒルガオ科
マメダオシ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Cuscuta australis

形態と生育環境

日当たりのよい野原や海岸に生えるつる性の寄生植物。茎は糸状で寄主にからみつき、黄色を帯びる。花は無柄で数個が束生し、花冠は果実より短く約2mm、筒部の内側基部にある鱗片は先が2裂し先に少数の突起がある。北海道～琉球に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

35メッシュのうち、5メッシュが現存、17メッシュが絶滅あるいは未発見、13メッシュが現状不明、現存個体数は50株未満。多くの地点で絶滅が報告されている。CRと判定したが、消長の大きな植物なので、減少率が過大に評価されている可能性もあり、今後の検討が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	7
未発見	10
不明	13

クマツヅラ科
ヤエヤマハマゴウ

CR(絶滅危惧IA類)[←NT]

Vitex bicolor

形態と生育環境

海岸部の低地に生育する低木。ミツバハマゴウ (*V. trifolia*) に似るが、葉に3-5小葉があって小葉柄がある点で区別される。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

4メッシュのうち、2メッシュに計50株未満が現存、1メッシュが絶滅、1メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	1

シソ科
ルリハッカ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Amethystea caerulea

形態と生育環境

日当たりのよい草地に生える1年草。高さ40-80cm、茎は四角で分枝する。葉は対生し、長さ1-2cmの柄があり、羽状に3-5全裂し、羽片は長さ3-6cm。萼は球状の鐘形で、長さ2.5-3mm。花冠はるり色、萼より少し長く、雄蕊は2本で長く花外に突き出る。分果は倒卵形、長さ約1.5mm。本州～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

今回の調査では2県から2メッシュの報告があったのみだが、岩手県と青森県で絶滅。青森県ではダム建設にともなって自生地が水没した。広島県では最近確認されておらず現状不明。確実な自生情報がなくすでに絶滅したおそれもあるが、現存の可能性を考慮してCRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	1

ゴマノハグサ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規←DD]

エゾノダツタンコゴメグサ

Euphrasia pectinata var. *obtusiserrata*

形態と生育環境

草地に生える1年草。茎は高さ15-30cm、曲がった毛がある。葉は卵円形で両面ともに無毛、長さ6-10mm。上部の葉腋に1花をつける。花は白色で、紫色の条があり、上唇の先までの長さ9-10mm、下唇は上唇より長い。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

スイカズラ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

オニツクバネウツギ

Abelia serrata var. *tomentosa*

形態と生育環境

丘陵地に生育する落葉低木。コツクバネウツギ (*A. serrata*) に似るが、若い枝、葉の両面、花柄、苞、子房、萼片には、白い開出毛(長さ1mmに達する)が密生する。四国に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

オオイソノギク

Aster ujiinsularis

形態と生育環境

多年草。イソノギク (*A. asagrayi*) に似るが、全体的に大きく、茎は直立し高さ40cm。茎葉はさじ形、中部より上に鈍鋸歯があり、長さ5.5-6cm。根生葉は丸いさじ形で両面に毛が多い。頭花は12個散房状に茎の上部につく。舌状花は雌花で、果実は茶褐色の冠毛が発達する。鹿児島県に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

株数の増減が大きく、生育地が限られている。現存個体数は50株未満。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

ダイトウワダン

Crepidiastrum lanceolatum var. *daitoense*

形態と生育環境

日当たりのよい岩場に生育する常緑の多年草。茎は木質化し、高さ15-20cmになり、葉腋から多数の枝が放射状に出る。沖縄県(大東諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

2メッシュのうち、1メッシュ50株未満が現存、1メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

オモダカ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

ホソバヘラオモダカ

Alisma canaliculatum var. *harimense***形態と生育環境**

湿地や溝に生える。ヘラオモダカ (*A. canaliculatum*) に似るが、葉が細長く、狭披針形で長さ8-20cm、幅3-10mm。葯は淡緑色ではなく、褐紫色。近畿地方に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

1メッシュ50株未満が現存。生育地の開発や遷移によって減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ユリ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

キバナホウチャクソウ

*Disporum uniflorum***形態と生育環境**

多年草。短い根茎に茎が密生する。花序には1-3個の花が束状につき、花は釣鐘状。花被片は平開せず倒卵形〜へら状、黄色、長さ2.5-3cm。長崎県に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ数株が現存するのみ。主な減少要因は道路工事、園芸採取、産地局限。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ヤマノイモ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

ルズンヤマノイモ

*Dioscorea luzonensis***形態と生育環境**

石灰岩地の自然林内に生える常緑のつる性多年草。地中に長さ20cmになる塊茎がある。葉は狭心形、5-7脈があり、長さ6-15cm、葉柄は葉身とほぼ同長。成熟個体では葉を対生する。雄花序は2-3個が腋生し、多数花をつける。雌花序は単生する。室果は長さ22mm、翼がある。沖縄県(大東諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ヤマノイモ科

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

アマミタチドコロ

*Dioscorea zemaroana***形態と生育環境**

葉は幅広くて基部は心形、13-15脈、葉縁はわずかに波状。雄花序は分枝して多数の花をつけ、巻き付く。雄花はほとんど無柄で、花被片は6、雄蕊は3、仮雄蕊はない。奄美大島に分布する。なお、本種の学名は、原記載に従い、種小名を *zamaroana* に修正するのが適当である。

判定理由 <判定基準 : ACD>

3メッシュに計100株未満が現存。主な減少原因は森林伐採、道路工事。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

イグサ科
オキナワイ

CR(絶滅危惧IA類)[←DD]

Juncus effusus var. *decipiens* f. *filiformis*

形態と生育環境

低地の湿地に生育する常緑の多年草。イグサ (*J. decipiens*) に類似するが、茎と花梗が細く、花被片が線状披針形となる。沖縄県(沖縄島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

過去に2か所で採集されているが、現存を確認できない。現存する可能性を考慮してCRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

ホシクサ科
スイシャホシクサ

CR(絶滅危惧IA類)[←NT]

Eriocaulon merrillii var. *suishaense*

形態と生育環境

クロホシクサ (*E. parvum*) に近縁であるが、頭花が灰白色で、雌花の萼片が2個。沖縄県に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

5メッシュのうち、3メッシュに計50株未満が現存、2メッシュが絶滅。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	0
不明	0

イネ科
エゾムギ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Elymus sibiricus

形態と生育環境

深山の林中に生育。カモジグサ (*E. tsukushiensis* var. *transiens*) に似るが、花穂は著しく下垂し、一部に小穂を2(-3)個ずつつけるところがあり、苞穎は短い。北海道~本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

3メッシュのうち、2メッシュに計50株未満が現存、1メッシュが未発見。減少原因は自然遷移や産地局限。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	1
不明	0

イネ科
ハラヌメリ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Sacciolepis myosuroides

形態と生育環境

ヌメリグサ (*S. indica*) に似るが、下記の点で異なる。円錐花序は、長さ8-18cm、直径3mmで基部は徐々に細くなる。小穂は通常無毛で長さ1.5-1.8mm、卵形で鋭頭~やや鈍頭。上部の小花と小穂はほぼ同長。九州南部に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

10株未満2メッシュが現存。水質汚濁や自然遷移により減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

イネ科
ヒメウシノシッペイ

CR(絶滅危惧IA類) [←DD]

Thaumastochloa cochinchinensis

形態と生育環境

多年草。稈はやや硬質、基部で分枝してゆるく束生、斜上して高さ20-40cm、無毛。葉は線形、長さ15cm内外、葉鞘は無毛で葉身より長い。穂状花序は単立、細長い円柱状、長さ5-10cm。

判定理由 <判定基準：D>

沖縄島の1か所で採集記録があるが、開発によって自生地は失われたと思われる。他の自生地がある可能性を考慮してCRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
オクタマツリスゲ

CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]

Carex filipes var. *kuzakaiensis*

形態と生育環境

樹林内に生育し、有花茎の高さ30-60cm、基部の鞘は赤紫色。ヒロハノオオタマツリスゲ (*C. f.* var. *arakiana*) に似るが、雄小穂の柄が短く、雄鱗片が淡緑色、果胞の嘴が短い。本州北部に分布する。

判定理由 <判定基準：ACD>

50株未満2メッシュが現存。踏みつけや自然遷移が減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
タイワンカンスゲ

CR(絶滅危惧IA類) [←NT]

Carex longistipes

形態と生育環境

川岸の岩場に生育し、有花茎の高さ25-50cm、基部の鞘は淡褐色で脈が紫褐色。葉は有花茎より高くなり、幅3-6mm。柱頭は3岐、瘦果は倒卵状楕円形でやや扁平な三稜形、柄も含めて4mm。西表島に分布する。従来、西表島でチャイロスゲ (*C. fulvorubescens*) とされたものはタイワンカンスゲ (*C. longistipes*) である。

判定理由 <判定基準：D>

3メッシュに計50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
シロホンモンジスゲ

CR(絶滅危惧IA類) [←NT]

Carex polyschoena

形態と生育環境

ニシノホンモンジスゲ (*C. stenostachys* var. *stenostachys*) に似るが、匍枝がなく密に束生し、茎の基部の鞘は暗褐色が濃く、頂小穂は淡色、他は淡緑色。

判定理由 <判定基準：D>

長崎県対馬に分布するとされるが、近年の現地調査では見つかっていない。確実な自生情報を得られなかったが、現存している可能性が高いため、CRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
トックリスゲ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Carex renchachaenium

形態と生育環境

基部の鞘近くに小穂をつける点でオキナワスゲ (*C. breviscapa*) に似るが、葉の幅が狭く、果胞の長さが長いことで区別できる。沖縄県(沖縄島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
オオホウキガヤツリ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Cyperus digitatus

形態と生育環境

低地の湿地や水田に生える夏緑性の多年草。根茎は短く、球茎状。稈は歪んだ三角柱形、長さ60-150cm、下部に葉がある。葉は扁平、幅5-15mm、下面は有稜。複散形花序は長さ15-22cm、小花序は4-9個、苞は2-3枚、枝は約7個。小穂は1-5個、密につき、線形、長さ6-8mm、幅1-1.5mm。鱗片は長楕円状楕円形。雄蕊は3個、柱頭は3個。瘦果は長楕円形。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ10株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
ヒメホウキガヤツリ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Cyperus nutans var. *subprolixus*

形態と生育環境

低地の湿地や水田に生える夏緑性の多年草。根茎は短く、球茎状。稈は高さ50-10cm、三角柱形。葉は稈より短く、幅5-10mm。複散形花序は長さ10-20cm、苞は2-4枚、花序より長く、枝は5-10個、長さ15cmになり、小花序は円筒状、長さ2-3cm、幅5-10mm。小穂は幅2-2.5mm、扁平、10-16花をやや疎につけ、鱗片は長楕円状卵形、長さ2mm。雄蕊は3個、柱頭は3個。瘦果は長さ2mm、狭長楕円形、やや扁平状三稜形。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ50株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
ムギガラガヤツリ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Cyperus uniolooides

形態と生育環境

湿地に生える高さ30-70cmの多年草。葉は線形、幅2-3mm、茎よりも著しく短い。茎頂に2-4個の長い苞葉をつけ、ここから出た1-4本の枝先に頭状に集まった小穂からなる花序をつける。小穂は扁平な広披針形で、長さ1-2.5cm、15-30花をつけ、わら色。花期は7-10月。四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

4メッシュのうち、2メッシュに計10株未満が現存、2メッシュが絶滅あるいは未発見。管理放棄や自然遷移が主な減少理由。本調査では記録されなかったが、本調査期間中に本州の1か所でも確認されている。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	1
不明	0

カヤツリグサ科
ロッカクイ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Schoenoplectus mucronatus var. *ishizawae*

形態と生育環境

タタラカンガレイ (*S. m.* var. *tataranus*) に似るが、稈の翼の形および刺針の長さで異なる。3つの翼は先端が幅広く、中央はやや窪んで両縁が顕著な稜となり、稈に6本の稜がある。刺針は果実よりやや短いか同長。本州(新潟県以南の日本海側)～九州に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

1メッシュ10株未満が現存。他にも自生地が残されている可能性がある。主な減少要因は、土地造成、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	3

ラン科
モイワラン

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Cremastra aphylla

形態と生育環境

高さ45cmの腐生植物。サイハイラン (*C. appendiculata*) とは、薬柱先端より下の腹側に見られる翼がないこと、唇弁基部先端の突起が平滑でなくしわ〜いぼ状になること、花色が褐色を帯びた赤紫であること、花序あたりの花数が少ない点異なる。北海道、本州、四国に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

1メッシュが現存、現存個体数は50株未満。主な減少要因は、園芸採取、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ラン科
ホソフデラン

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Erythrodes formosana

形態と生育環境

山地の自然林の林床に生える常緑の多年草。茎は匍匐し、先端は直立し、長さ30-60cm、3-4枚の葉を互生し、先端に総状花序をつける。葉は斜楕円形、長さ5-10cm、3脈が目立つ。総状花序は長さ20-40cm、多花を密につける。花は赤褐色、萼片と花弁は長さ5-6mm。唇弁は3浅裂し、長さ7mm、白色で、基部は長さ3mmの距となり、距は先端が2浅裂し、内部には突起がない。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

1990年代半ばに1メッシュ1株が確認されたが、その後に自生地は開発によって消滅した。他にも生育している可能性を考慮して、CRと判定。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

ラン科
シロテンマ

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Gastrodia elata var. *pallens*

形態と生育環境

オニノヤガラ (*G. elata*) に似るが、茎が短く、茎・花がともに淡黄色。北海道～九州に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

11メッシュのうち、4メッシュに計50株未満が現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、3メッシュが現状不明。踏みつけや自然遷移が主な減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	1
不明	3

ラン科 CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]
 ヒメスズムシソウ *Liparis nikkoensis*

形態と生育環境
 亜高山帯の草原に生育し、高さ3.5cmの小型の地生ラン。偽球茎は卵形。葉は2枚で1.5-2cm。花茎には3-4個の花がつく。側花弁は長さ3mmで帯黄色、糸状で後方に展開し、下に曲がる。唇弁は暗紫色、縦に黒色の脈があり、長さ4mm、卵形で全縁、先はしだいに尖る。関東地方に分布する。

判定理由 <判定基準：D>
 1980年代に確認された個体群は近年再確認できていない。自生地はシカの食害が著しく、絶滅した可能性もあるが、現存している可能性を考慮してCRと判定。

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

ラン科 CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]
 オキナワヒメラン *Malaxis purpurea*

形態と生育環境
 山地の明るい林床や草地に生える小形の夏緑性の多年草。偽球茎は円柱形、長さ5-8cm、3-4葉を互生する。葉は卵状披針形、長さ7-11cm。総状花序は頂生し、長さ10-25cmになり、ややまばらに20花程度をつけ、包葉は蕾より短い。花は紫褐色、径5mm。萼片と花弁は長さ4-5mm。萼片は長楕円形、花弁は線形。唇弁は長さ7mm、狭卵形、先は2裂し、基部は耳状になり蕊柱を包む。沖縄県（沖縄島）に分布する。

判定理由 <判定基準：ACD>
 2メッシュに計50株未満が現存。

10未満	0
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ラン科 CR(絶滅危惧IA類) [新規掲載]
 カイサカネラン *Neottia japonica*

形態と生育環境
 腐生ラン。唇弁は緑色。長さ4mmで萼片より少し長く先端は3裂し、深く2裂するサカネラン (*N. nidus-avis* var. *mandshurica*) やエゾサカネラン (*N. n.* var. *nudis-avis*) と区別できる。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>
 4メッシュのうち、1メッシュ50株未満が現存、1メッシュが未発見、2メッシュが現状不明。減少原因として踏みつけが考えられる。

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	1
不明	2

ラン科 CR(絶滅危惧IA類) [←NT]
 ヤクシマトンボ *Platanthera mandarinorum* subsp. *hachijoensis* var. *masamunei*

形態と生育環境
 アマミトンボ (*P. m.* subsp. *h.* var. *amamiana*) に似るが、苞はより長い。アマミトンボよりも高標高域に生育。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準：D>
 推定現存株数50株未満と推定される。

10未満	2
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

ラン科
ヒメシラヒゲラン

CR(絶滅危惧IA類)[新規掲載]

Pristiglottis rubricentra

形態と生育環境

小型の地生ラン。植物体はヤクシマヒメアリドオシラン (*Vexillabium yakushimense*) に似るが、唇弁にイナバラシ (*Odontochilus inabae*) のような櫛の歯状の突起があり、花被片の基部と葯帽は赤色を帯びる。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

1メッシュ50株未満が現存。減少原因は園芸採取や踏みつけ。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

コケシノブ科
ミカワコケシノブ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Hymenophyllum mikawanum

形態と生育環境

深山の林内、沢沿いの岩上にマット状に群生する常緑多年草。根茎は針金状で長くはう。葉柄は長さ1.2-3cm、胞子嚢群は、葉の先端に集まり、包膜は三角状卵形～広被針形、長さ1.3-2mmで、辺縁に欠刻状の著しい歯牙がある。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

4メッシュに計50株未満が現存。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

チャセンシダ科
フササジラン

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Asplenium griffithianum

形態と生育環境

低地の溪流沿いの湿った林内の岩上に着生する常緑性のシダ植物。根茎は短くはひ、葉をそう生状につける。葉は単葉で披針形、基部近くまで狭い翼があり、長さ5-15(-30)cm、幅1.5-2(-3)cmで多肉質。葉身の上半部で鈍鋸歯縁、葉脈は中肋と50度以上の角度でつき、葉縁に達せず、すべて遊離。胞子嚢群は線形で直線状、長さ1cmに達する場合もある。包膜は全縁。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

5メッシュに計100株未満が現存すると報告されたが、実際には250株未満と推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

オンダ科
イツキカナワラビ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Arachniodes cantilenae

形態と生育環境

山地の林床に生える常緑性のシダ植物。葉身は3-4回羽状複生、葉質はやわらかい厚紙質、最終裂片の辺縁の鋸歯は伸び、長さ約1mmの芒状になる。胞子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間か、やや中肋寄りにつき、包膜には縁毛が多い。九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ数百株と報告されたが、詳細な調査から100株未満が現存すると推定された。株数過大評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

オシダ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ハチジョウカナワラビ

Arachniodes davalliiformis

形態と生育環境

標高50-160mの間の常緑広葉樹林下のやや乾燥した斜面に生育する常緑性シダ植物。根茎は短くはい、葉柄は2-5mmの間隔でつく。根茎の鱗片は披針形で全縁、淡褐色～黒褐色、長さ5-7mm、密生する。葉身は広卵形、3回羽状、上部はホコ状。葉は二形性を示すが、完全ではない場合もある。伊豆諸島に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

5メッシュに計250株未満が現存すると報告された。

※メッシュは3次メッシュ

オシダ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ヒゴカナワラビ

Arachniodes simulans

形態と生育環境

根茎は不明、葉柄は長さ30-45cm、麦わら色。葉身は卵状三角形で、長さ30-50cm、幅25-40cm、4回羽状複生、鋭先形、側生する約10対の羽片は斜上し、基部は大きく、正三角形で、長さ30cm、幅15cm。小羽片は11裂し、およそ20対、正三角形から披針形、基部で長さ4-6cm、先端で長さ2cm、幅1cm。裂片は3-5個の芒のある歯牙がある。葉質はやや革質で、緑色。孢子嚢群は小さく、円形で、小羽片の末端に4-8個が細脈の先端のくぼみの近くに付き(中肋よりも辺縁寄り)、包膜は円形から腎形で、最初膜質で、縁毛があり、辺縁は波状縁。九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ数百株と報告されたが、詳細な調査から計100株未満と推定された。株数過大評価のため、判定をENとした。

ウラボシ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ミョウギシダ

Polypodium someyae

形態と生育環境

低山地の林中の岩上に生える夏緑性のシダ植物。根茎は長く横走し、暗色、径3-4mm、密に鱗片をつける。葉身は狭卵形～卵形、長さ10-30cm、幅7-12cm、羽状に深裂し、羽片の辺縁にはやや不規則で深い鈍鋸歯がある。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間につく。関東地方西部～四国に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	1
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	1
不明	1

判定理由 <判定基準 : E>

9メッシュのうち、7メッシュに計250株未満が現存、1メッシュが未発見、1メッシュが現状不明。主な減少原因は道路工事、園芸採取。

イラクサ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ヒメトキホコリ

Elatostema yakushimense

形態と生育環境

高さ10cm、葉も小型で、花序の総苞の縁に緑色の付属体がある(ヤマトキホコリ (*E. laetevirens*) では短毛)。屋久島に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

4メッシュに計100株未満が現存。

※メッシュは3次メッシュ

ナデシコ科
ハイツメクサ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Arenaria sajanensis

形態と生育環境

高山の蛇紋岩地や石灰岩地、礫地や風衝草原に生育する高さ1.5-3.5cmの草本。葉には1脈があり、縁に毛があり、先端は尖らない。花弁は長さ3-4mm。花柄に腺毛が密生。花期は7-8月。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ100株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

クスノキ科
ダイトウシロダモ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Neolitsea sericea var. *argentea*

形態と生育環境

シロダモ (*N. sericea*) に似るが、葉裏の毛が銀白色で、まったく赤みが無く、果実は楕円形で長さ13-15mm。沖縄県(大東諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

100株未満2メッシュが現存と報告されたが、計数百株が現存すると推定されることから、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンポウゲ科
タイシャクカラマツ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Thalictrum kubotae

形態と生育環境

多年草。植物体全体に腺毛が密生する。小托葉をもつ。花期が5-6月と早く、萼片(花被片)は宿存性。無柄で直立ないし斜上する瘦果を付け、葯隔の先端が突出する。中国地方に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ100株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンポウゲ科
コゴメカラマツ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Thalictrum microspermum

形態と生育環境

暖帯の林地や林縁に生える多年草。地下に匍枝を生じ、高さ15-30cm、全体に無毛。根出葉は1枚、2-3回3出複葉で長い柄がある。茎葉は2-3枚、托葉も小托葉もない。花序は散房状で多数の白色花をつける。瘦果の花柱はごく短く、柱頭を含めて0.2mm。四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

8メッシュのうち、3メッシュに計100株未満が現存、3メッシュが未発見、2メッシュが現状不明。主な減少原因は道路工事、園芸採取、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	3
不明	2

ウマノズクサ科
オオバカンアオイ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Asarum lutchuense

形態と生育環境

ハツシマカンアオイ (*A. hatsushimae*) に似るが、葉は大型で厚く、長さ10-19cm、基部は心形状矢じり形、表面に雲紋はない。花柄、萼筒とも長さ1.5cmで毛があり、萼裂片は長さ1.8cmで鈍頭、縁が外曲してうねりが著しい。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準: E>

11メッシュのうち、10メッシュに計250株未満が現存、1メッシュが現状不明。薬草として採取され、減少している。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	6
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

※メッシュは3次メッシュ

ウマノズクサ科
コトウカンアオイ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Asarum majale

形態と生育環境

ヒメカンアオイ (*A. takaioi* var. *takaioi*) とスエヒロアオイ (*A. dilatatum*) に似るが、萼筒が大きく、葯が長く、雌蕊群が萼筒の入り口より下にあり、5月中～下旬に開花する点で異なる。近畿地方に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

2メッシュに計100株未満が現存。自然遷移が減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ケシ科
リシリヒナゲシ

EN(絶滅危惧IB類)[←NT]

Papaver fauriei

形態と生育環境

高山帯岩地に生える多年草。全体に粗い毛があり、短い根茎があり株をつくる。葉は多数根生して柄があり、卵形で羽状に全裂する。花茎は高さ10-20cm、1花を頂生する。花弁は黄緑色、長さ約2cm、さく果はほぼ球形で長さ1cm、粗い毛がある。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

2メッシュ計約100株程度。崩壊地に自生するため、登山道脇の個体群は10年ほど前に比べて激減。近年になって栽培系統が自生地に蒔かれたことによる影響が懸念される。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

アブラナ科
ハリナズナ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Subularia aquatica

形態と生育環境

湖沼に生育する沈水もしくは湿生植物。葉は根生し、線形で先が細くなり、長さ0.5-5cm。1-10cmの花茎をのぼし、2-3個の白い花をつける。果実は長楕円形で2-3mm。東北地方に分布する。

判定理由 <判定基準: C>

1メッシュ1,000株未満が現存するが、生育地である泥底環境の攪乱によって絶滅するおそれがある。また近年再確認できていない生育地があり、減少傾向にあると推定される。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

バラ科

ヤクシマシロバナヘビイチゴ

EN(絶滅危惧IB類)[←NT]

Fragaria nipponica var. *yakusimensis***形態と生育環境**

ヤクザサ草原の縁に生育する草本。シロバナノヘビイチゴ (*F. nipponica*) に似るが、全体に矮小。屋久島に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

10株未満3メッシュが報告されたが、50株以上は現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

※メッシュは3次メッシュ

バラ科

ヤブザクラ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Prunus hisauchiana***形態と生育環境**

低山や丘陵地に生える落葉小高木。葉長5-6cm。花柄は長さ約1cmで開出する軟毛が生える。萼筒は萼裂片の長さの約1.5倍、萼裂片は卵円形で、縁に鋸歯がある。花弁長12-13mm。本州中部に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	1
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	2
不明	5

判定理由 <判定基準 : ACD>

12メッシュのうち、5メッシュに計250株未満が現存、2メッシュが未発見、5メッシュが現状不明。

マメ科

コシキジマハギ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Lespedeza argyrophylla***形態と生育環境**

海岸や内陸部のやや乾燥した岩場に生える高さ1-3mの落葉性低木。ツクシハギ (*L. homoloba*) に似るが、葉は濃緑色、灰色のピロード毛をもち、葉裏の中肋は密に毛が生え、鞘はより大きく10-15mmに達する点が異なる。鹿児島県(甌島列島)に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ100株未満が現存。

トウダイグサ科

アソタイゲキ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Euphorbia pekinensis subsp. *asoensis***形態と生育環境**

山地の明るい草原に生える夏緑性多年草。根茎は太い。茎は直立し高さ30-90cm、白い長毛が生える。葉は無柄、茎葉は楕円形~披針形で長さ4.5-7.2cm、根生葉は楕円形~卵形で長さ2.7-3.3cm。花期は5-7月。総包は無毛で直径2mm、腺体付属体は4か5個。さく果は長さ3.3mm、6列の鋭い突起をもち、無毛かまれに軟毛が散生する。九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

本調査では情報が得られなかった。約30年前の調査では、100-1,000株程度が生育していた。この地域の草原が減少しているため、本種も減少している可能性がある。30年前の株数からENと判定したが、現状を把握する必要がある。

アワブキ科
アオカズラ

EN(絶滅危惧IB類) [新規掲載]

Sabia japonica

形態と生育環境

落葉性の藤本。枝は緑色で、若枝には褐色の短毛がある、葉柄長7-14mm、葉身は卵状長楕円形、長さ4-9cm、幅2-4cm、全縁で、表面は深緑色でやや光沢があり、裏面の中脈上には粗毛を密生する。葉腋から、1-3個の花が束生した花序が出て、花は鐘状、黄色で径6-8mmで、長さ5-7mmの有毛の柄がある。四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

11メッシュのうち、8メッシュが現存、3メッシュが絶滅あるいは未発見、現存株数は百株未満。

現存株数別のメッシュ数

10未満	6
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	2
不明	0

グミ科
ヤクシマグミ

EN(絶滅危惧IB類) [←NT]

Elaeagnus yakusimensis

形態と生育環境

落葉小高木。葉は披針形、長鋭尖頭、表面に赤褐色の星状毛をやや密に散生し、裏面は赤褐色の鱗片を敷き、平滑で光沢がある。柄は5-7mm。小枝は濃赤褐色。果柄は長さ2.5-4cm、先が太くなる。果実は長さ約1cm。屋久島固有。

判定理由 <判定基準：D>

4メッシュに計50株未満と報告されたが、現存株数は250株未満と推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

セリ科
フキヤミツバ

EN(絶滅危惧IB類) [新規掲載]

Sanicula tuberculata

形態と生育環境

クロバナウマノミツバ (*S. rubriflora*) 系の小型種。根出葉は細長い柄があり、葉は径1.5-4cm、3全裂し、さらに2-3裂する。茎の高さ8-20cm、頂部に葉状の総苞片が対生し、各片は2-3深裂する。その中央部から2-3個の小散形花序を出す。花は小さく、緑色、萼歯片は披針形。果実は太く短く、刺毛があり、長さ4.5mm。本州～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

13メッシュのうち、11メッシュに計250株未満が現存、2メッシュが現状不明。森林化による減少傾向が認められる。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	5
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

ハイノキ科
コニシハイノキ

EN(絶滅危惧IB類) [←NT]

Symplocos konishii

形態と生育環境

山地の川沿いの自然林に生える常緑高木。葉は広倒披針形～長楕円状倒披針形、長さ12-18cm、幅5-7cm。腋生の穂状花序は有毛、花冠は乳白色。果実は球形で径4-5mm。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

10株未満3メッシュと報告されたが、計50株以上が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

モクセイ科
オオモクセイ

EN(絶滅危惧IB類) [←DD]

Osmanthus rigidus

形態と生育環境

山地に生える高さ3mほどの常緑低木。葉は厚い革質で長楕円形、長さ8-15cm、鋭頭、乾くと黄緑色になる。花は白色で径6-7mm、核果は長楕円形で長さ約2cm。鹿児島県(トカラ列島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

14メッシュに計250株未満が現存。減少原因は森林伐採や道路工事。

現存株数別のメッシュ数

10未満	11
50未満	2
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

リンドウ科
ハナヤマツルリンドウ

EN(絶滅危惧IB類) [←NT]

Tripterospermum distylum

形態と生育環境

山地の低木林の林縁に生育するつる性の多年草。ツルリンドウ(*T. trinervium*)に似るが、さく果である点異なる。種子には翼がある。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

13メッシュに計100株未満が現存と報告されたが、250株未満が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	10
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

アカネ科
ハクチョウゲ

EN(絶滅危惧IB類) [新規掲載]

Serissa japonica

形態と生育環境

高さ50-100cmの常緑小低木。若枝は黒紫色で短毛がある。托葉は深く3裂し、裂片は針形。葉は革質、長楕円形または倒披針形、長さ5-20mm、幅2-5mm、両面ともに無毛。花は短枝の先に1-2個つく。萼筒は長さ約1mm、先は5裂し、裂片は三角形、長さ約1mm。花冠は白色で淡紅紫色を帯びることがあり、筒は長さ約6mm、先は5裂。長花柱花と短花柱花がある。九州に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

1メッシュ1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ヒルガオ科
マルバアサガオガラクサ

EN(絶滅危惧IB類) [←NT]

Evolvulus alsinoides var. *rotundifolius*

形態と生育環境

海岸近くの原野に生える多年草。茎は匍匐または斜上し、長さ20-80cm、葉とともに銀色の長毛を密生する。葉は広卵形~広卵状披針形。花冠は淡青色、車輪状で5浅裂し、径6-8mm。沖縄県(与那国島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

本調査では現存を確認できなかったが、250株未満が現存すると推定される。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

シソ科
ツルカコソウ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Ajuga shikotanensis

形態と生育環境

日当たりのよい丘陵地の草原に生える多年草。直立する花茎があり、高さ10-30cm、開出する多細胞の長い軟毛がある。ロゼット葉は広倒披針形～倒卵形、茎葉は1-2対あり、上部の5-10対は苞となり、その腋に仮輪をつくって花をつける。花は淡紫色で、花茎の上部に穂状花序をつくる。花茎の基部から走出枝を出し、走出枝には花がつかない。本州北部～中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

15メッシュのうち、7メッシュに計100株未満が現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、4メッシュが現状不明。主な減少原因は草地開発、園芸採取、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	4
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	2
不明	4

シソ科
アマミタムラソウ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Salvia pygmaea var. *simplicior*

形態と生育環境

奄美諸島に生育し、林床に生育する草本。小葉は広卵形で、頂小葉が最も大きく、長さ2-3cm、鈍頭の鋸歯は5-8対。側小葉は長さ幅ともに0.5-1cm、やや鋭頭の鋸歯は2-3対。

判定理由 <判定基準 : E>

5メッシュに計1,000株未満が現存。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	3
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ゴマノハグサ科
ツクシゴメグサ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Euphrasia multifolia

形態と生育環境

山地の草地に生える1年草。茎は分枝して直立し高さ10-35cm、白い短毛がある。葉は卵状長楕円形～長楕円形で鋸歯は先が鈍いか、わずかに尖り、長さ6-10mm。苞は卵形または披針形で、鋸歯は先が鈍い。花は白色で紫色の条があり、上唇の先まで長さ7mm、下唇は上唇よりやや長い。さく果は長楕円形で長さ3-5mm。本州西部、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

10メッシュのうち、5メッシュに計1,000株未満が現存、3メッシュが絶滅、2メッシュが現状不明。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	4
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	0
不明	2

ハマウツボ科
シマウツボ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Orobanche boninsimae

形態と生育環境

湿った林に生育する寄生植物。葉は鱗片状で黄色をなし、粗毛に被われる。発生時期は9-10月、3-4月の2回。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : ACD>

11メッシュのうち、8メッシュに計250株未満が現存、3メッシュが現状不明と報告されたが、数百株が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。ノヤギによる食害、乾燥が主な減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	3
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	3

※メッシュは3次メッシュ

キク科
オオバヨモギ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Artemisia koidzumii var. *megaphylla*

形態と生育環境

茎は硬い。葉は長さ17-18cm、幅11-12cm、表面は緑色、裏面は白いビロード毛が密生し、厚い。花は9月に開花、釣鐘～球形で、長さ5mm、幅3.5-4mm。総苞は白い毛が密生する。

判定理由 <判定基準：D>

本調査では確実な現存情報が得られなかったが、250株未満が現存すると推定される。青森（大間港、尻屋）と北海道（立侍岬、戸井漁港）の産地記録がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

キク科
アシノクラアザミ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Cirsium ashinokuraense

形態と生育環境

ブナ林下に生育する高さ0.4-1mの多年草。匍匐枝があり直径2cm。最下茎葉が大きく、根生葉を欠き、直立あるいは斜上する頭花を持ち、2n=68の4倍体であるなど特異な形質を持つ。東北地方に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ100株未満が現存。森林伐採、河川開発、ダム建設、産地局限等が減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科
タネガシマアザミ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Cirsium tanegashimense

形態と生育環境

林縁や林間の草地に生える、高さ1m内外の草本。頭花が直立して咲く点でニッポウアザミ (*C. nipponense*) に似るが、本種は腺体を欠くために総苞が粘らないこと、総苞片が7-8列である点などで異なる。鹿児島県（種子島）に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

本調査では情報が得られなかったが、計100株以上が生育すると推定される。生育地は道路沿いや畑の脇など人為が及びやすい場所のため、今後は急速に減少する可能性もあり、注意が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

キク科
ヒメキクタバシロ

EN(絶滅危惧IB類)[←NT]

Myriactis japonensis

形態と生育環境

山間の湿地に生える多年草。地下茎は細く、高さ3-12cm、茎は密に毛がある。葉はロゼット状で密に毛があり、倒披針状長楕円形、長さ2.5-4cm、1-4対に羽裂し、側裂片は不揃い。頭花は長柄に単生する。総苞は半球形、長さ2.5mm、花床は凸出し、舌状花は長さ1mm、白色または淡紅色。花期は7-9月。瘦果は長さ2mm。屋久島固有。

判定理由 <判定基準：D>

5メッシュに計100株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

キク科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ヤクシマトウヒレン

Saussurea nipponica subsp. *savatieri* var. *yakusimensis*

形態と生育環境

ツクシトウヒレン (*S. n.* subsp. *s.* var. *higomontana*) に似るが、葉は密に白いしわしわの毛が生え、ジグザグの枝をもつ。屋久島に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	2
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : E>

5メッシュに計1,000株未満が現存。

※メッシュは3次メッシュ

オモダカ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

トウゴクヘラオモダカ

Alisma rariflorum

形態と生育環境

湿地に生育する多年草。葉身は長さ5-10cm、線状長楕円形。花序の第1節目の枝は2(3)本。花卉は長さ6-7mm、葯は褐色。果実は長さ3.5-3mm。本州~九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	1
100未満	3
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	9
未発見	0
不明	2

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

19メッシュのうち、8メッシュに計250株未満が現存、9メッシュが絶滅、2メッシュが現状不明。主な減少原因は水質汚濁や自然遷移。

トチカガミ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

セトヤナギスブタ

Blyxa alternifolia

形態と生育環境

沈水植物。ヤナギスブタ (*B. japonica*) に似るが、より大型で、葉の長さ6-8cm、種子は長さ2mm、表面に低い隆起が2-10個ある。本州中部~九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	6
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : ACD>

13メッシュのうち、10メッシュに計1,000株未満が現存、3メッシュが絶滅。主な減少原因は管理放棄。

ユリ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

コシキイトラッキョウ

Allium virgunculae var. *koshikiense*

形態と生育環境

岩場の草地に生える常緑的な多年草。鹿児島県の上甕島・下甕島固有。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

1メッシュ1,000株未満が現存。

ユリ科

ハマタマボウキ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Asparagus kiusianus***形態と生育環境**

海岸に生える多年草。クサスギカズラ (*A. cochinchinensis*) に似るが、茎の高さ50-80cm。太い枝の葉は棘状にならず、葉状枝は湾曲せず、花は長さ約5mm、液果が赤熟する。本州(山口県)~九州北西部に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

5メッシュに計1,000株未満が現存。主な減少原因は海岸開発。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	0
100未満	0
1,000未満	3
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ユリ科

ノヒメユリ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Lilium callosum***形態と生育環境**

山地の草原に生える多年草。コオニユリ (*L. leichtlinii*) に似るが、匍枝がなく、葉が線形、茎の高さは60-100cm。花被片は赤橙色で斑点がはっきりせず、長さ3-4cm、花柱は子房より長くならない。茎の先に2-9個の花をつけ、8月に開花。四国、九州、琉球に分布する。

判定理由 <判定基準: E>

18メッシュのうち、12メッシュに計250株未満が現存、5メッシュが絶滅あるいは未発見、1メッシュが現状不明。主な減少原因は園芸採取。

現存株数別のメッシュ数

10未満	7
50未満	3
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	2
不明	1

ユリ科

コウライワニグチソウ

EN(絶滅危惧IB類)[←DD]

*Polygonatum desoulavyi***形態と生育環境**

山地の林内に生える多年草。ワニグチソウ (*P. involucreatum*) に似るが、苞は披針形で小花柄の中部からやや上部について、縁には柱状突起があり、花糸はほとんど平滑。高さ20-40cm。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

1メッシュ100株未満が現存。土地造成、園芸採取、踏みつけ等が減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ユリ科

アラガタオオサンキライ

EN(絶滅危惧IB類)[←DD]

Smilax bracteata subsp. *verruculosa***形態と生育環境**

山地の常緑樹林に生える常緑のつる性低木。茎には太い棘が散生する。葉は卵状長楕円形~卵円形、長さ幅は13cmになり、葉柄は長さ1-2.5cm、托葉の先は巻ひげとなる。複散形花序は腋生し、雄花と雌花をつける。液果は球形、径5mm。母種のサツマサンキライ (*S. bracteata*) と比べて、小枝に粒状突起を密布し、粗澁となる点異なる。沖縄県(沖縄島)に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

3メッシュに計100株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

イグサ科

セイタカヌカボシソウ

EN(絶滅危惧IB類)[←DD]

*Luzula elata***形態と生育環境**

高山に生育。ヌカボシソウ (*L. plumosa* subsp. *plumosa*) やミヤマヌカボシソウ (*L. jimboi* subsp. *atrotepala*) に似るが、高さ30cm内外で、葉は幅広く、さく果は花被片の約2倍くらい長く、種枕は種子の2倍近く長い。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ1,000株未満が現存すると報告されたが、250株未満と推定される。株数過大評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

イネ科

ビロードキビ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Brachiararia villosa***形態と生育環境**

海岸近くに生える1年草。基部の分岐する高さ15-20cmの植物で全体に開出する軟毛がある。葉は長さ3-5cm、幅5-8mmで先は細く尖り、基部は丸い。花序は長さ4-6cm、6-10個の斜開する枝をつけ、小穂は総に圧着して、長さ2.5-2.7mm。花は8-10月。本州(紀伊半島)、四国、九州、琉球に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

11メッシュのうち、5メッシュが現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、2メッシュが現状不明、現存個体数は100株未満。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	4
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	2
不明	2

イネ科

キタメヒシバ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Digitaria ischaemum***形態と生育環境**

アキメヒシバ (*D. violascens*) に似るが、稈基部の最外側の葉鞘は無毛、左右から扁平になることが多い、小穂は長さ2.0-2.2mmとなる点で異なる。外来植物の可能性が指摘されている。アキメヒシバ類との分類学的検討が必要である。北海道~本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

3メッシュ計100株未満が報告された。栃木県などでは広く分布している。十分に認識されていないために近似のアキメヒシバと混同されている可能性がある。また、帰化の可能性もあり、さらに調査の必要がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

イネ科

イヌカモジグサ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Elymus gmelinii var. *tenuisetus***形態と生育環境**

ハマムギ (*E. dahuricus*) に似た多年草で、高さ70-100cm。花穂は直立し、長さ10-15cm、緑色または少し汚紫色を帯びる。苞穎は広披針形でやや大きく、5-9脈があって尖る。護穎は基盤とともにざらつき、芒は乾くと少し外曲。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

9メッシュのうち、5メッシュに計1,000株未満が現存、2メッシュが未発見、2メッシュが現状不明。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	2
不明	2

カヤツリグサ科
ハタベスゲ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

Carex latisquamea

形態と生育環境

山地の草原に生育する高さ40-75cmの多年草。茎と葉鞘に開出毛があり、基部の葉鞘は葉身がなく淡褐色。果胞は6-7月に熟し、斜開して硬い膜質、卵形で長さ5-6mm、脈があり、毛がなく、上方はしだいに中位の嘴となる。北海道、本州中北部、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

4メッシュのうち、3メッシュに計250株未満が現存、1メッシュが未発見。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	1
不明	0

カヤツリグサ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ムニンヒョウタンスゲ

Carex sp.

形態と生育環境

樹林内に生育し、有花茎の高さ20-40cm、根茎は短くそう生し、基部の鞘には葉身があり、淡色または褐色を帯びる。瘦果は三稜形、先端部は長さ0.5mmの円柱状の嘴になり、果胞は長さ4.5-5.5mm。小笠原諸島に分布する。レッドリスト公表時は未記載分類群であったが、現在は*C. yasuii*の学名が与えられている。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ50株未満が報告されたが、少なくとも250株未満は現存していると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

カヤツリグサ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

チチジマナキリスゲ

Carex sp.

形態と生育環境

低木林内に生育し、有花茎の高さ40-80cm、根茎は短く密にそう生する。花柱は宿存せず、小穂は1節に1個のことが多く、果胞は長さ4-5mm、太い脈が多数ある。小笠原諸島に分布する。レッドリスト公表時は未記載分類群であったが、現在は*C. chichimensis*の学名が与えられている。

判定理由 <判定基準：D>

50株未満2メッシュと報告されたが、少なくとも250株未満が現存していると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

カヤツリグサ科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ラウスゲ

Carex stylosa

形態と生育環境

高層湿原に生育し、有花茎の高さ20-40cm、根茎は短くそう生する。基部の鞘は濃褐色で葉身はない。頂小穂は雄性で、果胞は膨れた三稜形、微細な半球形の突起が密生して褐色を帯びる。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

1メッシュ50株未満と報告されたが、50株以上は現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

カヤツリグサ科
シマイガクサ

EN(絶滅危惧IB類)[←DD]

Rhynchospora boninensis

形態と生育環境

岩場に生育する多年草。高さ20-30cm。葉は根際より束生し、葉は線形でやや厚みがあり、先はややとがる。イガクサ (*R. rubra*) に似るが、葉幅が広く、鱗片の数が3-5枚で、瘦果は頭状レンズ形で凹凸があつて、上縁の短剛毛はほとんどない。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

7メッシュのうち、2メッシュに計100株未満が現存、5メッシュが現状不明と報告されたが、少なくとも250株未満は現存していると推定される。株数過小評価のため、判定をENとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	5

※メッシュは3次メッシュ

ラン科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

トクノシマエビネ

Calanthe tokunoshimensis

形態と生育環境

林床に生える常緑性多年草。エビネ (*C. discolor*) に似るが、全体に大型。葉は立性で越年しても横伏せず、やや肉厚、花茎もより太くて長く30-60cm、着花数が多く10-25個、やや斜上気味に咲き、花も平均的に大きい。唇弁の裂片は比較的幅が狭い。蕊柱がよく発達し、芳香を放つ点で異なる。鹿児島県に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

5メッシュに計250株未満が現存。主な減少原因は園芸採取。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	3
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

ラン科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

イモラン

Eulophia toyoshimae

形態と生育環境

やや湿った林内に生える腐生植物。高さ30-50cm。茎は半透明の茶褐色で節があり、地下茎が塊状になる。6月に開花。茶褐色の花を数個つける。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : ACD>

11メッシュのうち、10メッシュに計250株未満が現存、1メッシュが現状不明。減少原因は動物食害。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	7
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

※メッシュは3次メッシュ

ラン科

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

ギボウシラン

Liparis auriculata

形態と生育環境

常緑樹林中に生える。偽球茎は卵形、葉は2枚つけ、広卵形、急鋭頭、基部は心形、長さ5-12cm、幅3-8cm、脈間がくぼむ。花茎は高さ15-30cmで直立し、帯白色または紫黒色の花を十数個つける。唇弁は倒卵状くさび形で、円頭、萼片、側花弁とほぼ同長で5mm、基部に2個の突起がある。花期は7-8月。北海道~九州、屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

37メッシュのうち、15メッシュに計250株未満が現存、14メッシュが絶滅あるいは未発見、8メッシュが現状不明。主な減少原因は園芸採取。

現存株数別のメッシュ数

10未満	11
50未満	2
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	7
未発見	7
不明	8

ラン科

コウライズズムシソウ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Liparis koreana***形態と生育環境**

フガクスズムシソウ (*L. fujisanensis*) に似るが、花序はより大きく、花がややまばらにつく。最近の研究により、日本や韓国でコウライズズムシソウとよばれていたものは、タイプ標本とは異なることが判明し、現在はオオフガクスズムシソウとして新たな学名 *Liparis koreojaponica* が与えられている。

判定理由 <判定基準 : D>

今回の調査ではデータが得られなかったが、北海道に250株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ラン科

ササバラ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Liparis paradoxa***形態と生育環境**

日当たりのよい草原に生える。偽球茎は卵形、葉は3-5枚つけ、狭長楕円形、縦じわが顕著で鋭尖頭、長さ8-16cm、幅1.5-3.5cm。花茎は高さ20-30cmで直立し、汚紫色または黄緑色の花をまばらに多数つける。唇弁は倒卵形くさび形で反曲し、やや切頭、中央に浅い溝があり、長さは萼片と同長、基部に2隆起がある。花期は7-8月。本州(千葉県以南)~九州、琉球に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

10メッシュのうち、6メッシュに計1,000株未満が現存、3メッシュが絶滅あるいは未発見、1メッシュが現状不明。主な減少原因は園芸採取。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	3
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	2
不明	1

ラン科

クロクモキリソウ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Liparis sp.***形態と生育環境**

落葉樹林の林床に生える夏緑性の多年草。オオフガクスズムシソウ (*L. koreojaponica*) に似るが、クロクモキリソウでは蕊柱が太く短く、翼が発達すること、唇弁が垂直に外曲すること、また唇弁の基部近くから幅が広がるのが特徴である。花期は6月下旬から8月上旬。未記載分類群。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

今回の調査ではデータが得られなかったが、100株未満が生育。園芸採取によって10年間で3/4に減少。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ラン科

カンダヒメラ

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Malaxis kandae***形態と生育環境**

山地のサガリバナ林などの湿った林床や湿地に生える夏緑性の多年草。偽球茎は円柱形、長さ5-8cm、5-6葉を互生する。葉は楕円形、長さ6-14cm。総状花序は頂生し、長さ9-15cm、ややまばらに17-40花をつけ、包葉は長さ3-5mmで蕾より長い。花は帯紫緑色~濁紫色。萼片と花弁は長さ4mm、萼片は広楕円形、花弁は線形。唇弁は長さ6mm、三角状心臓形、先は2裂し、基部は耳状になり蕊柱を包む。沖縄県に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

5メッシュのうち、4メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが絶滅。減少原因は土地造成。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

ラン科

シナノショウキラン

EN(絶滅危惧IB類)[新規掲載]

*Yuania flava***形態と生育環境**

高さ10-30cmの腐生植物。ショウキラン (*Y. japonica*) に似るが、花卉がクリーム色であることと、唇弁の形が異なる。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準: ACD>

17メッシュのうち、12メッシュに計100株未満が現存、1メッシュが絶滅、4メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	9
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	4

イワヒバ科

アマミクラマゴケ

VU(絶滅危惧II類)[新規掲載]

*Selaginella limbata***形態と生育環境**

向陽の山地に生える常緑性のシダ植物。茎は匍匐し、長さ50cmに達し、どの分岐点からでも担根体を生じる。葉は二形、緑色～鮮緑色。腹葉は不整の卵形で鋭頭、長さ2.5mm、幅1.5mm。背葉は、腹葉と似ているが小型で、鈍頭。孢子嚢群は長さ3(-10)mm。奄美大島に分布する。

判定理由 <判定基準: E>

5メッシュに計数千株が現存。主な減少原因は道路工事や自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	4
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

ヘゴ科

メヘゴ

VU(絶滅危惧II類)[新規掲載]

*Cyathea ogurae***形態と生育環境**

林内の沢沿いに生える。茎は直立して高さ3-4m、基部で径20cmに達する。葉身は2回羽状深裂からほぼ全裂、基部の小羽片は、全裂、その他は深裂。葉柄は光沢のある暗褐色。小羽片の側脈は単生か1回分岐、孢子嚢群は辺縁と主脈の間かやや中肋寄りにつけ、包膜はない。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

7メッシュのうち、2メッシュに計1,000株未満が現存、5メッシュが現状不明と報告されたが、1,000株以上の現存が推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。近年父島においてノヤギの食害によって急激に減少しているので、今後、注意が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	5

※メッシュは3次メッシュ

ホングウシダ科

ムニンエダウチホングウシダ

VU(絶滅危惧II類)[←NT]

*Lindsaea repanda***形態と生育環境**

林下に生育する常緑性の地上生のシダ植物。根茎は短く匍匐し、径約2mm、鱗片は褐色で長さ約1.5mm。葉身は2回羽状複葉、三角状長楕円形で、長さ8-17cm、幅5cm、頂羽片ははっきりしない。小羽片の辺縁はほとんど切れ込まず、孢子嚢群はところどころでとぎれて長く伸びない。小笠原諸島固有。

判定理由 <判定基準: E>

11メッシュのうち、10メッシュに計数百株が現存、1メッシュが現状不明。近年、ノヤギの食害のために減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	7
50未満	1
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

※メッシュは3次メッシュ

ミズワラビ科
エビガラシダ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Cheilanthes chusana

形態と生育環境

向陽の岩隙や石垣などに生える常緑性のシダ植物。根茎は短く斜上し、葉はそう生ずる。葉身は狭披針形から長楕円形、鋭頭、基部は多少狭くなり、裏面は緑色、長さ5-25cm、幅2-5cm。孢子嚢群は、裂片の辺縁につき、偽胞膜は孢子嚢群ごとに独立するが、隣り合う2-3個が合着することもある。本州(近畿以西)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

31メッシュのうち、19メッシュに計数千株が現存、7メッシュが絶滅あるいは未発見、5メッシュが現状不明と報告されたが、約1,000株が現存すると推定されるため、判定をVUとした。道路工事などのために減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	8
100未満	4
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	5
不明	5

シシラン科

ヒメシシラン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Vittaria ensiformis

形態と生育環境

常緑広葉樹林中の湿った岩上や樹幹に生える常緑性のシダ植物。根茎は短く匍匐し、径0.7-1.5mmとやや細く、密に鱗片と根をつける。成葉は最大でも長さ40cm以下、幅2.5-6mm、中肋はほとんど見えない。孢子嚢群は葉縁にあって、外に向かって開く深い溝に生じる。沖縄県(八重山諸島)、東京都(小笠原諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

10株未満2メッシュが現存すると報告された。沖縄県の詳細は不明だが、少なくとも250株以上現存している。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

イノモトソウ科

カワリバアmaksシダ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Pteris cadieri

形態と生育環境

山地の乾いた林下に生える常緑性のシダ植物。根茎は短く、斜上し、鱗片をつける。葉は二形。栄養葉の頂羽片、側羽片ともに羽状深裂、孢子葉は頂羽片が単生、側羽片も単生の小羽片を1-2対出すのみ。孢子葉は長さ40cmに達し、葉柄は光沢がある赤褐色で、基部にまばらに鱗片をつける。屋久島以南の南西諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

4メッシュに計250株未満が現存すると報告されたが、計数百株が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。園芸採取と自然遷移などのために減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

チャセンシダ科

ムニンシダ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Asplenium polyodon

形態と生育環境

山林中の溪流沿いの岩上に生える常緑性のシダ植物。根茎は短く、斜上し、径1cm以下、密に鱗片をつける。葉は単羽状複生、長さ35cm、幅25cmに達する。羽片は長楕円形、鋭頭~鈍頭。孢子嚢群は線形で、長さ約1.5cm、包膜は狭くて薄い。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

13メッシュのうち、6メッシュに計100株未満が現存、7メッシュが現状不明と報告されたが、少なくとも計250株以上が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。ノヤギの食害によって減少しているため、今後、注意が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	7

※メッシュは3次メッシュ

チャセンシダ科
オクタマシダ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Asplenium pseudowilfordii

形態と生育環境

アオガネシダ (*A. wilfordii*) に似るが、葉身は2-3回羽状複生で、切れ込みは浅く、広披針形~狭五角形、鋭尖頭で、基部は狭くならず、終裂片の葉脈は2-6本、葉質はやや厚く、孢子嚢群はやや長く、5mmに達する。東北地方南部~近畿地方、中国地方西部、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

42メッシュのうち、24メッシュが現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、14メッシュが現状不明、計数百株と推定された。森林伐採や園芸採取などのために減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	16
50未満	7
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	2
不明	14

オシダ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

ムラサキベニシダ

Dryopteris labordei var. *purpurascens*

形態と生育環境

山地のやや陰湿な林下に生える常緑性のシダ植物。根茎は短く、斜上、塊状になり、葉をそう生し、鱗片をつける。葉柄は長さ20-30cm、中軸や羽軸とともに紅紫色を帯びる。葉身は、三角状広卵形、上部はやや急に狭くなり尖鋭頭、長さ30-45cm、幅20-35cm、2-3回羽状複生。孢子嚢群は辺縁と中肋の間につくものが多いが、辺縁につくものもあり、中肋寄りのものもまれにある。本州(紀伊半島、厳島)、四国南西部、九州、琉球に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

15メッシュのうち、11メッシュに計250株未満が現存、2メッシュが未発見、2メッシュが現状不明と報告されたが、計数百株が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。森林伐採や園芸採取によって減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	5
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	2
不明	2

オシダ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

オニイノデ

Polystichum rigens

形態と生育環境

山地の林中に生える常緑性のシダ植物。根茎は短く、直立から斜上、塊状となり、鱗片をつける。葉柄は葉身より少し短く、長さ40cmに達し、密に鱗片をつける。葉柄の鱗片は卵状披針形~披針形、尖鋭頭、長さ1.5cmに達し、光沢のある褐色から淡褐色。葉身は2回羽状複生、かたい革質。中肋の鱗片は披針形、孢子嚢群は小羽片のやや中肋寄りにつき、包膜はやや大きく、径約1.5mm、全縁からわずかに波状縁。本州(茨城県以西)に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

40メッシュのうち、23メッシュに計数千株が現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、13メッシュが現状不明。森林伐採、道路工事、自然遷移、動物食害などによって減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	9
50未満	5
100未満	4
1,000未満	5
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	2
不明	13

メシダ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

ウスバシケシダ

Deparia sp.

形態と生育環境

丘陵地の林縁などに生育する夏緑性の多年草。根茎は細く長くはい、1-2cm間隔で葉を出す。葉身は広披針形で長さ25-40cm。草質、2回羽状に切れ込み、羽片は8-10対、裏面は脈上に多細胞毛があるほかは無毛。孢子嚢群は、半月形、長さ1-3mm、裂片の抽肋に並んでつき、包膜は無毛。辺縁は若時内側に折れる。未記載分類群。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準 : C>

15メッシュのうち、11メッシュに計数千株が現存、3メッシュが絶滅、1メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	3
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	0
不明	1

ウラボシ科
ハハジマヌカボシ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [←NT]

Neocheiropteris superficialis

形態と生育環境

林中の岩上から樹幹に生える常緑性のシダ植物。根茎は長く横走り、径約3mm、鱗片をつける。葉柄は長さ10-20cm、葉身は基部に向かってしだいに狭くなり、狭いくさび形。葉は乾くと褐色。孢子嚢群は円形、径2mm以下で葉裏に散在する。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

3メッシュに計1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

ウラボシ科
オオクリハラシ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [←NT]

Neocheiropteris fortunei

形態と生育環境

林中の陰湿な場所の岩上や樹幹に着生する常緑性のシダ植物。根茎は横走り、径3-4mm、鱗片をつける。葉は単葉、全縁からわずかに波状縁、線状披針形で長鋭尖頭、基部はくさび形、長さ40-70cm、葉脈は不鮮明だが網状脈。孢子嚢群は円形で大型、径3-4mm、やや中肋寄りにつき中肋の両側に各1列に並ぶ。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

2メッシュのうち、1メッシュ1,000株未満が現存、1メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

タデ科
ヒメタデ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [新規掲載]

Persicaria erectominor

形態と生育環境

水湿地に生える1年草。茎の下部は地をはい、無毛、高さ20-45cm。葉は短い柄があり、広線形～長披針形、長さ3-8cm、表面に粗い短毛があるか無毛、裏面に腺点がない。托葉鞘は筒状、外面に伏毛があり、短い縁毛がある。瘦果は広卵形、三稜形、1.5-2mm。北海道～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

37メッシュのうち、17メッシュに計1万株以上が現存、10メッシュが絶滅あるいは未発見、10メッシュが現状不明。主な減少原因は土地造成や自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	6
100未満	2
1,000未満	1
10,000未満	3
10,000以上	0
絶滅	4
未発見	6
不明	10

ナデシコ科
イトハコベ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [新規掲載]

Stellaria filicaulis

形態と生育環境

低地の湿地に生える無毛の多年草。葉は柄がなく、線形、長さ1-3cm。花は葉腋に単生し、花柄は上を向き、長さ2-5cm、花弁は白色で2深裂する。さく果は長楕円形で長さ5-6mmで6裂する。種子は楕円形、長さ0.7mm。ややしわがある。本州（関東以北）に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

8メッシュのうち、5メッシュに計1,000株未満が現存、3メッシュが絶滅。主な減少原因は湿地開発や土地造成。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	4
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	0
不明	0

キンボウゲ科
ガッサントリカブト

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Aconitum gassanense

形態と生育環境

ブナ林の溪流沿いの湿地に生育する多年草。高さ150cm。茎葉は薄質で3中裂する。花梗には粗面屈毛が密生する。短い滑面斜上毛と同じく短い滑面腺毛がはえる心皮を具える。2n=16の染色体数をもつ。東北地方に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1,000株未満1メッシュが現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンボウゲ科
ワガトリカブト

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Aconitum okuyamae var. *wagaense*

形態と生育環境

秋田県・羽後朝日岳の山頂付近の草原に生育する植物で、基本変種のウゼントリカブト (*A. okuyamae*) とは全体が小型で、茎が直立し、花数の少ないコンパクトな総状花序をつけ、茎葉の質が厚い点で異なる。

判定理由 <判定基準：E>

1,000株未満2メッシュが現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンボウゲ科
シコクフクジュソウ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Adonis shikokuensis

形態と生育環境

多年草。フクジュソウ (*A. ramosa*) に似るが、葉裏と花床が無毛であり、瘦果がより短く、集合果が小さい点で異なる。茎葉は、対生または互生。花は、1つまたは複数つく。萼裂片は、花卉と同長かやや短い。四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

100株未満2メッシュが現存と報告されたが、少なくとも250株はあると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンボウゲ科
ウラボロイチゲ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Anemone amurensis

形態と生育環境

森林の林床や林縁部、湿った草原などに生育する多年草。キクザキイチゲ (*A. pseudoaltaica*) に似るが、根茎が細く、3出複葉の茎葉の3小葉は明瞭な小柄をもち、花は径2.0-2.5cmと小さく、染色体数が2n=48である点で異なる。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準：C>

今回の調査ではデータが得られなかったが、道東の低地に多く、5,000株以上はあると思われる。生育地は開発により減少している。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キンボウゲ科
アポイカラマツ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Thalictrum foetidum var. *apoiense*

形態と生育環境

蛇紋岩地に生える多年草。ニオイカラマツ (*T. f.* var. *foetidum*) に似るが、小葉が小さく長さ3-7mm、表面に腺毛がない。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

2メッシュに計1,000株未満が現存。減少原因は踏みつけ。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ウマノズクサ科
キナンカンアオイ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

Heterotropa takaai var. *austrokiensis*

形態と生育環境

ヒメカンアオイ (*Asarum takaai* var. *takaai*) に似るが、葉が卵状楕円形、萼の開口部がより小さく、裂片がより薄い。雌雄蕊柱の先端は開口部にふれることはなく、ヒメカンアオイより低い。花期は、10月と7、8月の集団がある。紀伊半島に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

2メッシュに計100株未満と報告されたが、広く認識されていないために情報が不十分。株数過小評価と思われるので、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ケシ科
チドリケマン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Corydalis kushiroensis

形態と生育環境

沢沿いや林縁、疎林内、路傍、人家近くなどの半陰からやや開けた草地に生育する2年草。ナガミノツルケマン (*C. raddeana*) 及びツルケマン (*C. ochotensis*) に類似するが、花が小さい(長さ9-13mm)ことと、距が真直ぐ斜め上へ伸びる点で異なる。花冠は黄色。さく果のバルブが巻き上がることで種子を弾いて散布する。夏から秋にかけて開花・結実する。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

11メッシュのうち、9メッシュに計1,000株未満が現存、2メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	5
100未満	1
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

アブラナ科
カワチスズシロソウ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Arabis flagellosa var. *kawachiensis*

形態と生育環境

標高350-760mの低山地の花崗岩質の砂地や崖に生育する多年草。スズシロソウ (*A. flagellosa*) に似るが、走出枝を持たないこと、ロゼット葉と長角果がより大形であることが特徴。染色体数は2n=32。高さ3-20cm。近畿地方に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

4メッシュのうち、3メッシュに計数千株が現存、1メッシュが現状不明。減少原因は踏みつけや自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

ベンケイソウ科
ムラサキベンケイソウ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

Hylotelephium pallescens

形態と生育環境

草原、崖などに生える草本。根茎は肥厚し、花茎は高さ20-50cm。葉は互生または対生、楕円状卵形～狭卵形、長さ3-8cm、深緑色で柄が無く、やや鋭い鋸歯がある。花序は散房状、花弁は濃紅紫色。北海道、本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準：C>

1メッシュ10株未満が報告されたが、現存個体数は数千株と推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	3

バラ科
ヒロハノカワラサイコ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Potentilla niponica

形態と生育環境

日当たりのよい川原や砂地に生育する草本。カワラサイコ (*P. chinensis*) に似るが、小葉は少数で中裂する。萼片は大型で、その背面には白い綿毛が多く、瘦果は平滑。北海道、本州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

53メッシュのうち、31メッシュに計数千株が現存、12メッシュが絶滅あるいは未発見、10メッシュが現状不明。主な減少原因は河川開発や自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	11
50未満	12
100未満	2
1,000未満	6
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	5
未発見	7
不明	10

バラ科
アオナシ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Pyrus ussuriensis var. *hondoensis*

形態と生育環境

ミチノクナシ (*P. ussuriensis*) に似るが、葉身が短く（アオナシは最大でも長さ8cm程度）、葉柄長も1-3cmでより短いこと、および葉縁の芒が不明瞭で単鋸歯になること（ミチノクナシでは芒状鋸歯縁）が異なる。

判定理由 <判定基準：D>

推定株数約1,000未満。八ヶ岳周辺、関東山地の一部、富士山の一部でのみ現存し、新潟、神奈川、静岡及び岐阜の各県ではすでに絶滅したと推測される。生育地の二次林およびその林縁は開発の影響を受けやすいため、今後も減少が続くおそれがある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

トウダイグサ科
ダイトウセイシボク

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Excoecaria formosana var. *daitoinsularis*

形態と生育環境

常緑低木。全体に無毛。葉柄長2cm、葉身は薄い革質、倒披針形または倒披針状長楕円形、長さ8-12cm、幅3-4cm、縁に微鈍頭の低い鋸歯がある。葉の裏面は緑色。花序は穂状で花は密生してつき、長さ2-2.5cm、上方には多数の雄花、下方には1-2個の雌花がつく。沖縄県（大東諸島）に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ツリフネソウ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

エンシュウツリフネソウ

Impatiens hypophylla var. *microhypophylla*

形態と生育環境

ハガクレツリフネ (*I. hypophylla*) に似るが、葉の幅が狭く、花は小型で長さ15-20mm、紫色の斑点があまりない。中部地方南部、九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	1
1,000未満	5
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	1
不明	3

判定理由 <判定基準 : E>

14メッシュのうち、9メッシュに計数千株が現存、2メッシュが絶滅あるいは未発見、3メッシュが現状不明。愛知県では増えているようだが、静岡県ではまれ。

ジンチョウゲ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

シャクナンガンピ

Daphnimorpha kudoii

形態と生育環境

標高1,400-1,900mの低い茂みの中に生える高さ約1.5mの落葉低木。葉は広楕円状披針形で厚く、長さ1.5-7cm。花序は今年枝に頂生し、花柄は長さ2-4cm。萼筒は細く、まっすぐで長さ8-9mm。子房と果実の柄は短い。屋久島固有。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	8
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

10メッシュに計250株未満が現存。

※メッシュは3次メッシュ

スミレ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

イソスミレ

Viola grayi

形態と生育環境

海岸の砂地に生える草本。地下茎は著しく長く伸びて分枝し、地表へ向かう。葉は小型で厚く、円心形。花は紫色、花弁は丸く、距は長さ5mmで白い。北海道西南部～本州（北部～鳥取県の日本海沿岸）に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	6
50未満	14
100未満	4
1,000未満	12
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : E>

40メッシュのうち、37メッシュに計数千株が現存、3メッシュが絶滅。主な減少原因は海岸開発や土地造成、踏みつけ。

スミレ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

ホソバシロスミレ

Viola patrinii var. *angustifolia*

形態と生育環境

シロスミレ (*V. patrinii*) に似るが全体に小型で、高さ8-10cm。葉が細く、葉身の基部がくさび形。本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	4
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	3
不明	1

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

9メッシュのうち、5メッシュに計1,000株未満が現存、3メッシュが未発見、1メッシュが現状不明。主な減少原因は自然遷移。

ノボタン科
イオウノボタン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Melastoma candidum var. *alessandrense*

形態と生育環境

ノボタン (*M. candidum*) に似るが、長い雄蕊の葯隔基部の内方に伸びる裂片の先端に小歯牙があり、基部の外方に剛毛がある点で区別される。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

3メッシュに計250株未満が現存。生育地は局限されている。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

スギナモ科
ヒロハスギナモ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Hippuris tetraphylla

形態と生育環境

沼地に生える抽水～湿生植物。スギナモ (*H. vulgaris*) に似るが、葉が厚く幅は広く4-5mm、節に着く葉数は少なく4-6枚が輪生する点で異なる。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

2メッシュに計数千株が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

セリ科
ムニンハマウド

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Angelica japonica var. *boninensis*

形態と生育環境

海岸のサンゴ石灰岩の岩場に生える多年草。茎は高さ1-1.5mくらい、上部で枝を分ける。葉は1-2回3出羽状複葉で光沢があり、小葉は卵形で鋸歯がある。頂生する大形の複散形花序に多数の花をつける。花は小さく、白色。果実は広楕円形で両端がへこみ、両翼は広い。東京都(小笠原諸島)、沖縄県(大東諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

9メッシュのうち、5メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが絶滅、3メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	3
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	3

※メッシュは3次メッシュ

ツツジ科
ヤクシマミツバツツジ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Rhododendron yakumontanum

形態と生育環境

山地の上部の低木林内に生える高さ1-1.5mの落葉低木。葉身は菱形状円形、長さ2-6cm、幅1.8-5cm、裏面に毛が散生する。花芽は丸みのある卵形で、褐色の毛が密に生える。さく果はゆがんだ円柱形で長さ13-22mm。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

12メッシュに計250株未満が現存と報告されたが、250株以上は現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	6
50未満	6
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

モクセイ科
ナンゴクモクセイ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

Osmanthus ernervius

形態と生育環境

高木。若い枝は灰白色、葉は鋭尖頭、長楕円状被針形、革質で側脈は両面ともに不明瞭。沖縄県（八重山諸島）に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

2メッシュに計1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

マチン科
チトセカズラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Gardneria multiflora

形態と生育環境

林内に生える常緑藤本。茎は緑色で無毛。葉は対生し、革質、披針形または長楕円形で、長さ6-12cm、両面ともに無毛。花序には3-8個の花がある。花は長さ約5mm、花冠裂片は無毛、花糸と葯の背面は無毛。液果は球形で径約8mm、紅色、2個の種子をもつ。中国地方に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

38メッシュのうち、18メッシュに計1,000株未満が現存、20メッシュが現状不明と報告された。しかし、減少率が過大評価されていると考えられるので、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	8
50未満	4
100未満	6
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	20

ガガイモ科
フナバラソウ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Vincetoxicum atratum

形態と生育環境

山野の草地に生える多年草。全体に密に軟毛があり、茎は直立して高さ40-80cm。葉は楕円形～卵形、長さ6-14cm、裏面に著しく脈が浮き出て、両面多毛。花は暗褐紫色、径12-14mm。袋果は広披針形で長さ7-8cm、有毛。北海道～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

127メッシュのうち、72メッシュに計数千株が現存、31メッシュが絶滅あるいは未発見、24メッシュが現状不明。主な減少原因は草地開発や管理放棄、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	56
50未満	10
100未満	5
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	22
未発見	9
不明	24

アカネ科
ヤクシマヤマムグラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

Galium pogonanthum var. *yakumontanum*

形態と生育環境

山地の湿った針葉樹林に生える草本。茎は細く、高さ5-15cm。葉は狭い長方形～楕円形、長さ3-7mm、幅1.5-3mm。花冠先端外面に軟毛がない。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

18メッシュに計100株未満が現存と報告されたが、計1,000株未満が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	16
50未満	2
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

アカネ科
シマザクラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [←NT]

Hedyotis leptopetala

形態と生育環境

林内や林縁、岩地に生える高さ1mの草状の低木。葉は披針形、基部は鋭形、革質、長さ3-9cm。花序は散房状の集散花序で多数の花が付き、花は淡紫色。花柄は無毛。萼裂片は広三角形。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

21メッシュのうち、13メッシュに計1,000株未満が現存、8メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	7
50未満	4
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	8

※メッシュは3次メッシュ

アカネ科
シマギョクシンカ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [新規掲載]

Tarenna subsessilis

形態と生育環境

林内に生える高さ1-1.5mの常緑低木。葉柄は長さ3-6(-15)mm、葉身は長楕円形で長さ6-20cm、基部は普通円形、上部の葉はねじれて茎を抱く。花柄は太くて短く、花序に花が密集する。液果は球形で径約7mm、黒熟し、4-10個の種子がある。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

13メッシュに計1,000株未満が現存。近年父島においてノヤギの食害が顕著になり、急激に減少している。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	5
100未満	3
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

ヒルガオ科
ハマネナシカズラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [新規掲載]

Cuscuta chinensis

形態と生育環境

マメダオシ (*C. australis*) やアメリカネナシカズラ (*C. pentagona*) に似るが、花冠が果実よりも長く、果実は花冠をかぶったまま成熟する。本州(中部地方以西)～琉球に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

23メッシュのうち、12メッシュに計1万株以上が現存、7メッシュが絶滅あるいは未発見、4メッシュが現状不明。主な減少原因は海岸開発。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	6
100未満	3
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	1
絶滅	3
未発見	4
不明	4

シソ科
ヤクシマシソバタツナミ

VU(絶滅危惧Ⅱ類) [←NT]

Scutellaria kuromidakensis

形態と生育環境

山地の林縁に生育する多年草、高さ5-10cm。ツクシタツナミソウ (*S. kiusiana*) に似るが、茎の毛が長く、花が小さく、三角形の葉をもち、矮小。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

4メッシュに計100株未満と報告されたが、250株以上は現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	3
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

シソ科

ムニンタツナミソウ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

*Scutellaria longituba***形態と生育環境**

常緑林の林床や林縁に生育する多年草、高さ40-70cm。茎には稜があり、短毛が被っている。花は白色で花筒が長い。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

10メッシュのうち、7メッシュに計1,000株未満が現存、3メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	3
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	3

※メッシュは3次メッシュ

ゴマノハグサ科

ハマトラノオ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

*Pseudolysimachion sieboldianum***形態と生育環境**

海岸の崖に生える多年草。茎は斜上して長さ20-30cm。葉は対生して肉質でつやがあり、長楕円形、両面とも無毛、長さ4-9cm。葉柄がなく、葉の基部は茎を抱く。花軸、花柄に開出する長い毛が生える。花冠は青紫色で、長さ6mm、筒部1.5mm。九州南西部(男女群島、甌島列島)、奄美諸島、慶良間諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E>

7メッシュのうち、6メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	1
100未満	1
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

ゴマノハグサ科

ゴマノハグサ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Scrophularia buergeriana***形態と生育環境**

やや湿った草原に生える多年草。根の一部は紡錘状に肥大する。茎は直立して高さ90-150cm、四角に角張る。葉は対生し、長さ1-2cmの柄があり、葉身は卵形、長さ6-8cmで縁に多数のとがった鋸歯がある。花序は細長く穂状に見える。花は黄緑色で長さ5-6mm。さく果は卵形で長さ約5mm。本州、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

64メッシュのうち、26メッシュに計数千株が現存、20メッシュが絶滅あるいは未発見、18メッシュが現状不明。主な減少原因は土地造成や管理放棄、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	13
50未満	10
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	2
10,000以上	0
絶滅	8
未発見	12
不明	18

ゴマノハグサ科

ハマクワガタ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Veronica javanica***形態と生育環境**

暖地の海岸近くの荒地に生える越年草。茎は分枝して斜上し高さ10-50cm、曲がった毛が生える。葉は対生し三角状卵形、両面に毛が散生し、長さ1.5-4cm。茎の上部の葉腋から長さ3-6cmの細い花序を出し、まばらに花をつける。花柄は長さ1mm以下。花は淡い瑠璃色で径2-2.5mm。雄蕊は花冠より短い。花柱は長さ0.5mm以下。本州(伊豆以西)~琉球、伊豆諸島、小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

15メッシュのうち、9メッシュに計1,000株未満が現存、2メッシュが絶滅あるいは未発見、4メッシュが現状不明。主な減少原因は土地造成や踏みつけ、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	5
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	1
不明	4

ハマウツボ科
ハマウツボ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Orobanche coerulescens

形態と生育環境

海岸や川原の砂地に生え、ヨモギ属の根に寄生する1年草。全体に長軟毛が生えるが、腺毛はない。茎は直立して高さ10-25cm。鱗片葉は黄褐色、狭卵形または披針形で、長さ1-1.5cm。花穂は太く、花は淡紫色で長さ2cm。北海道～琉球に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

60メッシュのうち、39メッシュに計数千株が現存、11メッシュが絶滅あるいは未発見、10メッシュが現状不明。主な減少原因は海岸開発や自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	18
50未満	15
100未満	3
1,000未満	3
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	7
未発見	4
不明	10

タヌキモ科
ノタヌキモ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Utricularia aurea

形態と生育環境

池や低地のため池に浮遊する1年草。越冬芽を作らない。水中葉は多数の捕虫囊をつけ、長さ3-4cm、毛状の裂片が立体的に分枝し、水から出すとしぼんで毛筆状になる。花軸は水中の主軸よりも太く、鱗片葉がない。花は黄色、径6-7mm、距は斜め下を向き、下唇よりやや短い。萼は2.5-3mm。さく果は径4mm。本州～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

69メッシュのうち、39メッシュに計1万株以上が現存、10メッシュが絶滅あるいは未発見、20メッシュが現状不明。主な減少原因は池沼開発や水質汚濁。

現存株数別のメッシュ数

10未満	7
50未満	10
100未満	6
1,000未満	11
10,000未満	4
10,000以上	1
絶滅	7
未発見	3
不明	20

キキョウ科
バアソブ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Codonopsis ussuriensis

形態と生育環境

山地林下に生える多年生つる植物。全体に白毛を散生する。ツルニンジン(*C. lanceolata*)に似るが、塊根は短く、球形。萼裂片は長さ10-15mm、幅4-6mm、花冠は鐘状で長さ20-25mm、内面は紫色で、特に下半部には濃紫色の斑点がある。種子は濃褐色で光沢があり、翼がない。北海道～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

47メッシュのうち、35メッシュに計1,000株未満が現存、7メッシュが絶滅あるいは未発見、5メッシュが現状不明。主な減少原因は森林伐採や管理放棄、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	23
50未満	8
100未満	3
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	5
未発見	2
不明	5

キク科
コシキギク

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Aster koshikiensis

形態と生育環境

海岸近くの岩場や草地に生える多年草。アキハギク(アキバギク、アキワギク)(*A. sugimotoi*)に似るが、茎に密な開出毛が生え、総苞が太い。鹿児島県(甕島列島)に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

3メッシュに計1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

コバナガンクビソウ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Carpesium faberi

形態と生育環境

山林下に生える多年草。茎は直立し高さ50-70cm、紫褐色を帯び、軟毛がある。下部の葉は卵状長楕円形、鋭尖頭、長い柄があり、柄を含めて長さ10-14cm、幅3cm。頭花は径4-5mm。枝の先に點頭する頭花をつけ、総苞は鐘球形、長さ4mm。総苞片は覆瓦状に並び、4列。本州（中部地方西部以西）、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

29メッシュのうち、16メッシュが現存、3メッシュが未発見、10メッシュが現状不明、現存個体数は計1,000株未満。主な減少原因は道路工事。

現存株数別のメッシュ数

10未満	7
50未満	4
100未満	5
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	3
不明	10

キク科

オオシマノジギク

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Chrysanthemum crassum

形態と生育環境

海岸に生える多年草。地下茎ははい、茎はそう生し、径5-6mm、高さ30-40cm。葉は4cmの長い柄があり、広卵形、長さ3-5.5cm、3中裂、表面は緑色、裏面は密に毛があつて灰白色。頭花は少なく、径3-4.5cm、長い柄がある。瘦果は長さ2mm。奄美諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

15メッシュのうち、14メッシュに計数千株が現存、1メッシュが現状不明。海岸域の開発によって生育地の減少が続いている。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	2
1,000未満	9
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

※メッシュは3次メッシュ

キク科

オガアザミ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Cirsium horiiianum

形態と生育環境

夏緑樹林下や川沿いに生育する0.5-2mの多年草。匍匐枝は直径1cm。関東地方南岸沿いに分布するホソエノアザミ (*C. tenuipedunculatum*) に類似するが、総苞片は、より狭い卵状楕円形で、茎葉はより倒楕円形。東北地方に分布する。

判定理由 <判定基準：C>

2メッシュに計数千株が現存。生育地が開発される危険性がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	2
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

サドアザミ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

Cirsium nipponicum var. *sadoense*

形態と生育環境

葉は全縁もしくは羽状浅裂、時に2-10mmの棘をもつ。外側の総苞片は革質、線形～狭い披針形、長さ8-20mmで腺体はなく、先端は上方に反り、1mmの棘がつく。花卉は淡紫色。瘦果は灰褐色。佐渡島に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

5メッシュに計1万株以上が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	3
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

ハマサワヒヨドリ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Eupatorium lindleyanum var. *yasushii*

形態と生育環境

海岸の草地に生育する多年草。茎の節間は短く、丈は低い。葉は5行脈があり、鈍頭でほとんど無柄、茎と葉下面脈上に開出した長い毛が密生する。関東南部、伊豆諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

9メッシュのうち、5メッシュに計1,000株未満が現存、4メッシュが現状不明。減少原因は園芸採取や踏みつけ。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	2
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	4

キク科

オガコウモリ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Parasenecio ogamontanus

形態と生育環境

ブナ林下に生育する。葉身は偏五角状腎形で、ごく浅く五裂し、裂片の先端は短く尖る。コバナノコウモリ(チョウカイコウモリ) (*P. chokaiensis*)に最も近いが次の点で異なる：1) 葉柄に翼があり、わずかではあるが明瞭に抱茎する、2) 茎葉の鋸歯は低平であり、3) 総苞片は5-6(-7)個で、4) 頭花あたりの小花数は5-9個と少ない。東北地方に分布する。

判定理由 <判定基準：C>

2メッシュに計数千株が現存。生育地が開発される危険性がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

カラフトアザミ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Saussurea acuminata var. *sachalinensis*

形態と生育環境

多年草。太い地下茎を有し、茎は高さ50-100cm、葉状の翼がつく。根生葉は開花前に枯れ、卵形～楕円形で長さ15-17cm、基部は切形、くも毛が両面につく。茎葉は鋭尖形、基部は切形または短い葉柄に流れる。散房花序。総苞は狭い円柱状、長さ11-12mm、4列。花期は8-9月。雌雄同株。花弁は紫色、長さ13-14mm、花筒は9mm。瘦果は円柱形、約6mm。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

1メッシュ1,000株未満が現存。他に道北の海岸沿いに分布記録があるが、すでに絶滅している可能性がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科

オナモミ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Xanthium strumarium

形態と生育環境

道ばたなどに生える1年草で、茎は高さ20-100cm、短毛がある。葉は互生し、3.5-10cmの長柄があり、葉身は卵状三角形で、心形、長さ6-10cm、3-5浅裂し、両面に剛毛があつてざらつく。筒状花は白色。花期は8-10月。成熟した雌総苞は、かぎ状の刺や嘴を含めて、長さ9-18mm、幅6-12mm。誤ってオオオナモミ(*X. occidentale*)の写真が掲載されている図鑑がしばしば見られる。北海道～琉球に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

66メッシュのうち、24メッシュに計数千株が現存、21メッシュが絶滅あるいは未発見、21メッシュが現状不明。主な減少原因は帰化競合。

現存株数別のメッシュ数

10未満	6
50未満	12
100未満	1
1,000未満	4
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	9
未発見	12
不明	21

トチカガミ科
ミズオオバコ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Ottelia alismoides

形態と生育環境

水田や溝に生える沈水性の1年草。葉は根生し、葉柄があり、葉身は広披針形で縁に波形のしわがあり、長さ10-30cm、幅2-15cm。花弁は、白～薄い桃色で3枚、雄蕊3、雌蕊3の両性花である場合がほとんどであるが、九州の一部地域から単性花(雄花)を付ける株が確認されている。同一花柄上に、両性花は1個、単性花は多数つく点で異なる。本州～九州に分布する。

判定理由 <判定基準: E + ACD>

290メッシュのうち、187メッシュに計1万株以上が現存、45メッシュが絶滅あるいは未発見、58メッシュが現状不明。主な減少原因は池沼開発や土地造成、水質汚濁、農薬汚染、管理放棄、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	35
50未満	80
100未満	32
1,000未満	33
10,000未満	7
10,000以上	0
絶滅	31
未発見	14
不明	58

ユリ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

ヤクシマシライトソウ

Chionographis sparsa

形態と生育環境

山地の常緑樹林林床に生える多年草。シライトソウ(*C. japonica*)に比べて全体に小型で、葉の多くは狭長(幅5-15mm)で尖り濃緑色で側脈は下面であまりはっきりせず、通常細長い葉柄をもち、茎葉は短い(まれに葉が長卵形または楕円形で鈍頭のものもある)。上側の花被片は長さ7-13mmあるが、ごく小形の個体では6mmくらいになる。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準: D>

10メッシュに計1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	4
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

ツユクサ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

アオイカズラ

Streptolirion lineare

形態と生育環境

山地に生える1年生つる植物。高さ2-3m。葉は卵心形、長さ5-14cm、幅3-9cm、先が長く尖り、葉柄は長さ3-9cmで基部は短い鞘となり、その縁に毛がある。花序の基部には卵心形の苞があり、葉腋や茎の頂に長い花軸が出て先に集散花序がつく。花は白色で径5-8mm、花弁は線形で反転し、雄蕊は6個、8-9月に開花。萼片は長楕円形、長さ4mm。さく果は卵状楕円形で先が嘴状になり長さ8-11mm、種子に稜角としわがある。中国地方に分布する。

判定理由 <判定基準: C>

7メッシュのうち、4メッシュに計数千株が現存、3メッシュが現状不明と報告された。道路工事などによって生育地が減少する可能性がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	3

ホシクサ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

シロエゾホシクサ

Eriocaulon pallescens

形態と生育環境

湿地に生える1年草。葉は線状針形で長さ5-7cm、先端は鋭く尖る。花茎は1-2個、細く、長さ5-6cm。頭花は径約2mm、少数花からなり、総苞片は2-3個、卵状長楕円形で鈍頭、頭花と同長、花床に毛がない。雌花の萼の上縁に微歯と2細胞の長毛がある。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準: ACD>

1メッシュ数千株が現存するが、生育地が1か所しかない。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ホシクサ科

イズノシマホシクサ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

*Eriocaulon zytanii***形態と生育環境**

湿地に生える1年草。葉は束生し、披針状線形、長さ2.5-5cm、5脈。花茎は高さ7-9cm、4肋がある。頭花は径3-4mm、乾けば淡黄白色、総苞片は頭花より長く、先は尖る。雌花の萼片は離生し、白色。雄花の萼片は基部のみが合着。伊豆諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

2メッシュに計1万株以上が現存。一部の自生湿地が乾燥し、やや減少傾向にある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	1
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

イネ科

チイサンウシノケグサ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Festuca chiisanensis***形態と生育環境**

高さ10-20cm。稈の上部は毛茸あり、葉身は軟く、縦溝あり。花序は4-6cm、葯は長さ1.2-1.5mm、護穎は有芒。本州(中部地方北西部)、四国に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

7メッシュのうち、6メッシュに計250株未満が現存、1メッシュが現状不明。減少原因は踏みつけ、自然遷移、産地局限。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	5
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

イネ科

イブキトボシガラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

Festuca parvigluma var. *breviaristata***形態と生育環境**

トボシガラ(*F. parvigluma*)に似るが、芒がほとんどないことが特徴。山地に生育する。本州(伊吹山、大峰山)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

3メッシュのうち、2メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが現状不明。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

イネ科

ヌマドジョウツナギ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Glyceria spiculosa***形態と生育環境**

沼地や高層湿地に生育する多年草、根茎が匍匐する。高さ30-120cm。葉身は漸尖頭、苞穎は2.5-3mm、葯は長さ1.5mm。花は淡緑色、時に汚赤紫色。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準：C>

1メッシュ数千株が現存。減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ミクリ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

オオミクリ

Sparganium erectum var. *macrocarpum*

形態と生育環境

多年生の抽水植物。ミクリ (*S. erectum*) に似るが、果実が幅広く、長さ5-9mm、幅5-8mm、上部はほぼ平坦である。本州、四国に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	5
100未満	6
1,000未満	2
10,000未満	2
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	1
不明	2

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

21メッシュのうち、17メッシュに計数千株が現存、2メッシュが絶滅あるいは未発見、2メッシュが現状不明。主な減少原因は池沼開発や河川開発。

カヤツリグサ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

ワンドスゲ

Carex argyi

形態と生育環境

河川下流や湖縁に生育し、有花茎の高さ40-60cm。根茎は短くはい、ゆるくそう生ずる。基部の鞘は赤褐色で、著しく糸網を生じる。果胞は長さ4-5mm、嘴はやや長くて先端は二列。本州(近畿地方)、九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

2メッシュに計1,000株未満が現存。減少原因は河川開発。

カヤツリグサ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

ミヤマイワスゲ

Carex chrysolepis var. *odontostoma*

形態と生育環境

山地に生育する。コイワカンスゲ (*C. chrysolepis*) に似るが、果胞の長さが6-7mm、嘴が細長い。九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	3
100未満	1
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	1
不明	0

判定理由 <判定基準 : E>

7メッシュのうち、6メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが未発見。減少原因は踏みつけ。

カヤツリグサ科

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←DD]

トカラカンスゲ

Carex conica var. *scabrocaudata*

形態と生育環境

常緑広葉樹林内や林縁に生育し、有花茎の高さ30-50cm、基部の鞘は黒褐色、そう生ずるが時に匍枝をだす。柱頭は3岐、果胞は長さ2.5-3.5mmで、やや太い脈があり、有毛。雌鱗片の芒は長さ0.5-1mm。鹿児島県(トカラ列島)に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	1
100未満	0
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準 : D>

4メッシュに計1,000株未満が現存。減少原因は森林伐採や道路工事。

※メッシュは3次メッシュ

カヤツリグサ科
ヌマクロボスゲ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Carex meyeriana

形態と生育環境

湿原に生育し、大型の谷地坊主を形成する。茎は高さ30-50cm。葉は灰緑色で幅1-1.5mm、基部の葉鞘は葉身がなくて硬く、栗褐色をなし、糸網を生じる。小穂は2-3個、頂小穂は雄性で無柄、長さ5-10mm、鱗片は暗紫褐色。果胞は楕円形で、扁三稜形をなし、長さ3-3.5mm、灰色で密に細突起があつて光沢がなく、数脈があり、短い嘴がつく。本州中部以北、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : E + ACD>

11メッシュのうち、8メッシュに計数千株が現存、3メッシュが絶滅あるいは未発見。主な減少原因は湿地開発や自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	2
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	2
不明	0

カヤツリグサ科
ホザキマスキサ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Carex planata var. *angustalata*

形態と生育環境

河川敷などの低湿地に生育する多年草。タカネマスキサ (*C. planata*) に似るが、小穂は花茎に8-12個つく。下部の小穂は間隔をおいてまばらにつくが、上部ではしだいに接する。本州(中部以西)、九州に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

13メッシュのうち、10メッシュが現存、2メッシュが絶滅、1メッシュが現状不明、現存個体数は1,000株未満と報告された。減少率が過大評価されていると考えられるので、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	4
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	0
不明	1

カヤツリグサ科
タイホクスゲ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Carex taihokuensis

形態と生育環境

樹林下に生育し、根茎は短くそう生し基部に短い有花茎をつけ高さ5-30cm。果胞は光沢があつてまばらに短毛があり、長さ5-6mm。沖縄県(八重山諸島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
フサカンスゲ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Carex tokarensis

形態と生育環境

常緑樹林下の沢の側壁に生育し、有花茎の高さ40-100cm、根茎は短く密にそう生。基部の鞘は淡褐色で脈は紫褐色。葉はやや平滑で小穂は各節に3-8個。鹿児島県(トカラ列島)に分布する。

判定理由 <判定基準 : D>

1メッシュ1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

カヤツリグサ科
オノエテンツキ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Fimbristylis fusca

形態と生育環境

ヤリテンツキ (*F. ovata*) に似るが、小穂がやや数多くつき、柄があって、ほぼ散状に並び、披針形で、長さ7-10mm、幅2-2.5mm、扁平、やや尖り、光沢がなく、濃褐色、基部に長さ5cmの苞がつく。鱗片は数個、やや不同長で、鋭く内折し、微毛がある。果実は広倒卵形で、白色、長さ約1mm、9-10月に熟す。四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

2メッシュに計1,000株未満が現存。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
ハタバカンガレイ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Schoenoplectus gemmifer

形態と生育環境

湿地に生える多年草。ヒメカンガレイ (*S. mucronatus*) とカンガレイ (*S. triangulatus*) に類似するが、1) 柱頭の多くが2本であり、2) 流水中に浮遊する稈の先端部からしばしば無性芽を生じ、3) 稈先端部の無性芽および根茎上の束生葉に葉身のある葉を生じ、4) 流水域に生育し常緑性である点で異なる。本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

26メッシュのうち、16メッシュに計数千株が現存、3メッシュが絶滅あるいは未発見、7メッシュが現状不明。主な減少原因は河川開発や土地造成。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	6
100未満	3
1,000未満	4
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	2
不明	7

カヤツリグサ科
ヒメカンガレイ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Schoenoplectus mucronatus var. *mucronatus*

形態と生育環境

湖沼、ため池に生育する抽水植物。カンガレイ (*S. triangulatus*) に似るが、全体やや小型で、茎は高さ40-70cm、小穂の鱗片にやや稜角があり、果実に明らかな横じわがあり、刺針が果実より短い。本州～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

37メッシュのうち、23メッシュに計1,000株未満が現存、7メッシュが絶滅あるいは未発見、7メッシュが現状不明。主な減少原因は湿地開発や管理放棄、自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	10
50未満	10
100未満	1
1,000未満	2
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	3
未発見	4
不明	7

ラン科
ヒメノヤガラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

Chamaegastrodia sikokiana

形態と生育環境

常緑樹林下に生える腐性植物。根茎はやや太く、横にはい、小型の鱗片をもつ。茎は直立し、高さ10-20cm、やや肉質、淡紅色で、無毛、鱗片葉を互生する。唇弁は長さ6mm、下部に胞状にふくれ、舷部は丁字状。蕊柱腹面に角状の突起物がある。本州(岩手県以南)～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

26メッシュのうち、16メッシュに計250株未満が現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、6メッシュが現状不明。主な減少原因は森林伐採、踏みつけ。

現存株数別のメッシュ数

10未満	12
50未満	3
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	2
不明	6

ラン科

ムニンヤツシロラン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Gastrodia boninensis***形態と生育環境**

湿った林床に生育する腐生植物。茎は肉質で灰褐色。花時の高さは8-10cm。12-1月頃、茎の先端に白色～緑色を帯びた花をやや密に4-8個つける。花柄は子房とともに長さ9-10mm、基部に長さ6-7mmの卵形で尖った苞をつける。萼は3/4ほどが萼筒となり、先が3裂する。花被片は、長楕円形で萼筒の裂片内側につく。唇弁は長楕円状倒卵形、基部は爪状で花筒につく。果実は長さ3-4cm、幅10-12mm、3月に熟す。小笠原諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

10メッシュのうち、8メッシュに計1,000株未満が現存、2メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	3
100未満	0
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

※メッシュは3次メッシュ

ラン科

シマササバラ

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Liparis formosana var. *hachijoensis***形態と生育環境**

ユウコクラン (*L. formosana*) に似るが、花が小型で、距は7-8mm、側萼片は長さ8-9mm。伊豆諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：E + ACD>

61メッシュのうち、27メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが絶滅、33メッシュが現状不明。火山噴火が減少原因。

現存株数別のメッシュ数

10未満	16
50未満	7
100未満	3
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	33

※メッシュは3次メッシュ

ラン科

マツラン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Saccolabium matsuran***形態と生育環境**

常緑広葉樹林内の樹幹に着生。多数のやや太い糸状の根があり、茎は細く長さ1-3cm。葉は密に2列に互生し、狭長楕円形で鈍頭、長さ7-20mm、幅3-5mm、暗紫色の斑紋がある。花序は1-4個の花がつき、花は黄緑色に暗紫色の斑点がある。唇弁は全縁で、距は胞状。花期は5-6月。本州（宮城県以南の太平洋側）～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

37メッシュのうち、18メッシュに計250株未満が現存、5メッシュが絶滅あるいは未発見、14メッシュが現状不明と報告された。着生植物ゆえの見落としがあると思われ、数百株が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	14
50未満	2
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	3
不明	14

ラン科

モミラン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[新規掲載]

*Saccolabium toramanum***形態と生育環境**

針葉樹と広葉樹の混交林の樹幹に着生。茎は細く、ときに分枝し、まばらに葉を2列互生する。葉は楕円形または卵状楕円形で鋭頭。花序は2-6個の花がつき、花は黄緑色で各片の中央は紫紅色、唇弁は3裂、距は短円柱形。花期は3-4月。本州（福島県以南）～九州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

13メッシュのうち、9メッシュに計1,000株未満が現存、1メッシュが未発見、3メッシュが現状不明。主な減少原因は森林伐採や園芸採取。

現存株数別のメッシュ数

10未満	6
50未満	1
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	1
不明	3

ラン科
イシガキキヌラン

VU(絶滅危惧Ⅱ類)[←NT]

Zeuxine gracilis var. *sakagutii*

形態と生育環境

常緑樹林下に生える。茎は高さ20cm、3-5葉をつける。葉は卵形、長さ2-3cm、紅紫色の小花をまばらに8-10個つける。屋久島以南の南西諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：D>

12メッシュのうち、10メッシュに計250株未満が現存、2メッシュが現状不明と報告されたが、250株以上は現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をVUとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	6
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

イワヒバ科
コウズシマクラマゴケ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Selaginella doederleinii var. *opaca*

形態と生育環境

湿った林床に生えるシダ植物。オニクラマゴケ (*S. doederleinii*) に似るが、葉は黄緑色で光沢がなく、茎も葉も柔らかく、腹葉先端は鈍頭で、背葉先端は鋭尖頭であるが芒状にならず、突出部は0.2mm程度などの特徴をもつ。伊豆諸島に分布する。

判定理由 <判定基準：->

16メッシュのうち、10メッシュに計1,000株以上が現存、6メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	3
100未満	1
1,000未満	5
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	6

※メッシュは3次メッシュ

メシダ科
テバコワラビ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Athyrium atkinsonii

形態と生育環境

山地の林床に生える夏緑性のシダ植物。根茎は短く横走し、葉をこみ合っ
てつける。葉身は3-4回羽状複生、卵状三角形～広卵形、長さ25-65cm、幅
15-35cm、裂片は円頭、小さい鈍鋸歯がある。孢子囊群は裂片のやや中肋寄りに
つき、ほぼ円形、包膜は膜質、円腎形～三日月形、辺縁に小さな突起がある。
本州(関東地方～近畿地方北部、山口県)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準：->

29メッシュのうち、17メッシュに計数千株が現存、3メッシュが絶滅あるいは未発見、9メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	7
100未満	3
1,000未満	4
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	1
不明	9

メシダ科
ヒメホウビシダ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Athyrium nakanoi

形態と生育環境

林中の湿った岩上や崖地に生える常緑性のシダ植物。根茎は普通太いが、
やや長く横走することもあり、斜上した先端に葉をそう生ずる。葉身は単羽
状複生、披針形～狭披針形、長さ5-20cm、幅1.5-5cm、羽片の辺縁に、鈍鋸歯
があり、中軸に微毛がある。孢子囊群は羽軸と辺縁の中間に1列に並び、包膜
は鉤形か馬蹄形、半月形、赤褐色で、辺縁に不規則な突起がある。屋久島に
分布する。

判定理由 <判定基準：->

12メッシュ計250株未満が現存と報告されたが、1,000株以上が現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をNTとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	11
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

メシダ科

オオシケシダ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

*Deparia bonincola***形態と生育環境**

川沿いのやや湿った森林の林床に生える常緑性のシダ植物。根茎は太く、直立し、径約1.6cm、葉をそう生ずる。高さ30cmに達する。葉身は披針形、先端は急に狭くなり、鋭尖頭、2回羽状深裂、長さ55-75cm、幅25-30cmで無毛。胞子嚢群は線形、長さ3(-4)mm以下で、包膜は全縁。小笠原諸島固有。

判定理由 <判定基準:->

19メッシュのうち、9メッシュに計1,000株未満が現存、10メッシュが現状不明。近年ノヤギによる食害が著しく、今後の注意が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	4
100未満	2
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	10

※メッシュは3次メッシュ

タデ科

ナガバノウナギツカミ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

*Persicaria hastatosagittata***形態と生育環境**

水際に生える1年草。茎の下部は地をはい、上部は直立し、下向きの刺毛があり、高さ30-100cm。葉は有柄、卵状ほこ形、長さ3-12cm、両面に星状毛と刺毛があり、縁毛を密生。総状花序は密な頭状をなして頂生し、花柄に腺毛がある。瘦果は卵状三稜形、長さ3-4mm。本州~九州に分布する。

判定理由 <判定基準:->

51メッシュのうち、32メッシュに計数千株が現存、16メッシュが絶滅あるいは未発見、3メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	15
100未満	6
1,000未満	8
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	10
未発見	6
不明	3

メギ科

シオミイカリソウ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Epimedium trifoliatobinatum subsp. *maritimum***形態と生育環境**

海岸に面した低木林の林縁や岩場に生育する高さ15-30cmの多年草。花は白色で距は長さ10mm。ヒメイカリソウ (*E. trifoliatobinatum*) に似るが、不明瞭な鋸歯があり通常越年生の硬い葉を持つ点が異なる。四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準:->

6メッシュのうち、5メッシュに計数千株が現存、1メッシュが現状不明。特に減少傾向は見られない。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	1
1,000未満	1
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

ベンケイソウ科

アズマツメクサ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

*Tillaea aquatica***形態と生育環境**

水田や河川・湖沼などの泥湿地に生える1年草。高さ2-5cm。茎は基部で分枝し束生。葉は線状披針形で、長さ5mm、開出または斜開する。花は4数性、長さ1.5mm、茎の上部葉腋に単生。花弁は白色、長さ1.5mm。袋果は淡紅色。北海道~九州に分布する。

判定理由 <判定基準:->

25メッシュのうち、17メッシュに計1万株以上が現存、5メッシュが絶滅あるいは未発見、3メッシュが現状不明。湿生1年草で、消長が激しいため、減少率が過大評価されている可能性がある。一方、生育湿地の環境変化(乾燥化など)によって個体群が一気に消滅する可能性もある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	8
100未満	3
1,000未満	0
10,000未満	2
10,000以上	2
絶滅	2
未発見	3
不明	3

スマイレ科

アワガタケスマイレ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Viola awagataensis

形態と生育環境

ナガハシスマイレ (*V. rostrata*) に似るが、葉は強い光沢があり、基部は切形。東北地方、関東地方に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	1
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	2

判定理由 <判定基準：->

4メッシュのうち、2メッシュに計数千株が現存、2メッシュが現状不明。顕著な減少傾向はみられない。保全依存の可能性があるのでNTとした。

ヤブコウジ科

ツルマンリョウ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Myrsine stolonifera

形態と生育環境

常緑広葉樹林に生え、つる状に伸びる常緑の低木で匍匐する。葉は互生し、やや革質で長楕円形または狭楕円形、長さ4-9cm、両面ともに無毛。花は葉腋に数個が束生し、花冠は5深裂し、柱頭は点状。果実は球形、径約5mm、赤く熟し、無毛。近畿地方、中国地方西部、屋久島に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	2
100未満	1
1,000未満	5
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準：E>

11メッシュ計数千株が現存。主な減少原因は園芸採取。

ガガイモ科

クサタチバナ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Vincetoxicum acuminatum

形態と生育環境

山の草地またはやや乾いた林内に生える多年草。石灰岩地などに多い。茎は直立し高さ30-60cm、緑色で分枝しない。葉は5-16mmの柄があり、卵形~長楕円形、両面の脈上に微毛があり、長さ5-13cm。花冠は無毛で白色、径約2cm。花序は茎頂部に集中し、長い柄がある。本州(東北地方南部以南)、四国、九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	5
50未満	3
100未満	7
1,000未満	2
10,000未満	2
10,000以上	0
絶滅	2
未発見	0
不明	0

判定理由 <判定基準：->

21メッシュのうち、19メッシュに計数千株が現存、2メッシュが絶滅。主な減少原因は自然遷移。

タヌキモ科

イヌタヌキモ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Utricularia australis

形態と生育環境

湖沼、ため池、水田などに生える多年性の浮遊植物。タヌキモ (*U. vulgaris* var. *japonica*) に似るが、花茎の断面は中実。殖芽は長楕円形で暗褐色、長さ4-10mm。本州~九州に分布する。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	6
1,000未満	12
10,000未満	14
10,000以上	8
絶滅	0
未発見	0
不明	19

判定理由 <判定基準：->

59メッシュのうち、40メッシュに計1万株以上が現存、19メッシュが現状不明。株数過小評価と思われるが、個体群によっては保全依存の可能性はある。

タヌキモ科
オオタヌキモ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Utricularia macrorhiza

形態と生育環境

池、湿地に生育する。タヌキモ (*U. vulgaris* var. *japonica*) に似るが、花冠はタヌキモより一回り大きく、仮面部が大きく盛り上がり微小な有柄腺をもつ。下唇の両側がやや垂れ下がり、タヌキモと異なり水平に横広がりにはならない。距は細長く12-18mmで下唇の2/3から同長、湾曲して上屈し尖頭である。花茎は高さ10-40cmで花後も伸長し、3-16花をつける。小花柄は8-15mmと短く、花後下垂する。水中茎と葉片が巨大化し、葉片は基部で大小に分かれ、直径1.5-5mmの捕虫嚢を多数つける。北海道に分布する。

判定理由 <判定基準:->

株数は不明。保全依存の可能性がある。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科
フクド

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Artemisia fukudo

形態と生育環境

河口付近に生え、満水時は全体が海水につかることがある。花が咲くと枯れる。全体にメロンの香りがある。葉身は扇形で2-3回掌状に深裂し、裂片は線形で円頭。初めくも毛があるが、のちに無毛となり厚い。帯紫色の側枝が高さ30-50cmに伸び、円錐花序に多数の花をつける。頭花は短い倒円錐形で幅5-7mm。本州(中部以西)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準:E>

61メッシュのうち、53メッシュに計1万株以上が現存、5メッシュが絶滅あるいは未発見、3メッシュが現状不明。減少率過小評価(過去の絶滅産地が評価されていない)の可能性があるので、判定をNTとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	7
100未満	14
1,000未満	18
10,000未満	8
10,000以上	3
絶滅	4
未発見	1
不明	3

キク科
キクタニギク

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Chrysanthemum boreale

形態と生育環境

山地の谷間のやや乾いた崖に生える多年草。茎は直立し、高さ1-1.5m、そう生し走出枝を出さない。葉は有柄で、葉身は長さ5-7cm、羽状に深裂し、基部は切形または心形。頭花は黄色でやや散状に多数つき、径1.5cm。総苞は長さ4mm、片は3-4列で覆瓦状、外片は線形。瘦果は長さ1mm。本州(岩手県以南)、九州に分布する。

判定理由 <判定基準:->

35メッシュのうち、27メッシュに計数千株が現存、8メッシュが現状不明。ここ10年の顕著な減少傾向はみられないが、以前に比べて生育地は減少していると思われる。緑化吹き付け種子に混じって移入された外国産系統があり、栃木、群馬、和歌山、福岡、佐賀、長崎の各県以外は移入の可能性が高い。移入系統との交雑が懸念される。

現存株数別のメッシュ数

10未満	3
50未満	10
100未満	2
1,000未満	10
10,000未満	2
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	8

キク科
トカラノギク

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Chrysanthemum ornatum var. *tokarense*

形態と生育環境

海岸に近い草地に生育する多年草。葉は3-5裂、葉裏の毛は薄いものから、濃くて銀色にみえるものまで変異が多い。屋久島、口永良部島、トカラ列島に固有。

判定理由 <判定基準:->

10メッシュ計数千株が現存。生育地の海岸部は開発されるおそれがあるためNTとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	2
50未満	3
100未満	2
1,000未満	3
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

※メッシュは3次メッシュ

トチカガミ科
トチカガミ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Hydrocharis dubia

形態と生育環境

池や溝に生える多年草。水中に走出枝を出す。葉は、根生、長柄があり、基部に2個の長さ2.5-3.5cmの托葉があり、葉身は円心形、全縁で径4-7cm、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花は単性、雄花、雌花ともに萼片は3個で緑色、花弁は3個で卵形、白色、長さ10-15mm。花期は8-10月。本州～琉球に分布する。

判定理由 <判定基準：->

84メッシュのうち、44メッシュに計1万株以上が現存、33メッシュが絶滅あるいは未発見、7メッシュが現状不明。減少率は過大評価されている可能性がある。ここ10年の顕著な減少傾向はみられないが、確実に生育地が減少している。

現存株数別のメッシュ数

10未満	12
50未満	9
100未満	6
1,000未満	11
10,000未満	5
10,000以上	1
絶滅	27
未発見	6
不明	7

ホシクサ科

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

クロイヌノヒゲ

Eriocaulon atrum

形態と生育環境

1年草。葉は線形で長さ2-10cm、中部の幅1-3mm、7-9脈の格子状、先端は鋭く尖る。花茎は高さ5-12cm、4-5肋でわずかにねじれ、総苞片の上部は黒藍色を帯び、頭花とやや同長、花床に毛がある。雌花の花弁の内面に毛があり、種子にかぎ毛がある。北海道～本州に分布する。

判定理由 <判定基準：E>

14メッシュのうち、13メッシュに計1万株以上が現存、1メッシュが絶滅。主な減少原因は自然遷移。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	3
100未満	1
1,000未満	3
10,000未満	4
10,000以上	1
絶滅	1
未発見	0
不明	0

サトイモ科

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

ヒメカイウ

Calla palustris

形態と生育環境

低地から山地の水湿地に生える。根茎は横走し、径1-2cm。葉は心形で全縁、長さ幅ともに7-14cm、葉柄長は10-25cm。花茎は高さ15-30cm、仏炎苞は長さ4-6cm、花序は長さ1.5-3cmで果時には5cmになる。北海道、本州中北部に分布する。

判定理由 <判定基準：->

11メッシュのうち、10メッシュに計数千株が現存、1メッシュが現状不明。顕著な減少傾向はみられないが、保全依存の可能性があるのでNTとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	2
100未満	2
1,000未満	5
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

カヤツリグサ科

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

アサマスゲ

Carex lithophila

形態と生育環境

川岸の草地に生育する。ウスイロスゲ (*C. pallida*) に似るが、小穂はさび色または赤褐色を帯び、果胞は無毛。本州中部に分布する。

判定理由 <判定基準：->

3メッシュのうち、2メッシュに計数千株が現存、1メッシュが絶滅。主な減少原因は湿地開発や農薬汚染。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	1
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	0
不明	0

カヤツリグサ科
ヤクシマカンスゲ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Carex morrowii var. *laxa*

形態と生育環境

渓谷の岩場や湿った急斜面に生育する。カンスゲ (*C. morrowii*) に比べて葉は幅3-8mmと細く、雌小穂は著しくまばらに果胞をつける。基部の鞘は赤褐色。屋久島に分布する。

判定理由 <判定基準:->

4メッシュ計50株未満が現存と報告されたが、少なくとも1,000株以上は現存すると推定される。株数過小評価のため、判定をNTとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	4
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ラン科
ミヤマムギラン

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Bulbophyllum japonicum

形態と生育環境

常緑広葉樹林内の樹幹や岩上に着生。横にはう根茎上に、長さ6-8mmの卵球形の偽球茎をまばらにつけ、その上に1枚の葉を頂生。葉は革質で、長さ4-8cm、幅6-10mm、鋭頭。6-7月に開花、偽球茎の基部から1花茎を出し、先端に3-7花を散状につける。花は長さ約10mm、帯紅紫色、側萼片は背萼片や唇弁より著しく長い。本州(中部地方南部、紀伊半島)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準:->

50メッシュのうち、36メッシュに計数千株が現存、4メッシュが絶滅あるいは未発見、10メッシュが現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	14
50未満	4
100未満	6
1,000未満	12
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	1
未発見	3
不明	10

ラン科
ムカゴソウ

NT(準絶滅危惧)[新規掲載]

Herminium lanceum

形態と生育環境

やや湿った草地に生える。楕円形の根から茎が出て、高さ20-45cm、茎の中部に3-5葉を互生する。葉は線形または広線形で鋭尖頭、長さ8-20cm、幅5-10mm、基部は茎を抱く。唇弁は線形、長さ6-8mm中部で3裂し、側裂片は線形で長く、中裂片は著しく短く突起状。距はない。6-8月に開花。北海道西南部~琉球に分布する。

判定理由 <判定基準:->

58メッシュのうち、18メッシュに計数千株が現存、27メッシュが絶滅あるいは未発見、13メッシュが現状不明と報告されたが、数万株は現存すると思われる。また、沖縄県では顕著な減少傾向はみられない。株数過小評価のため、判定をNTとした。

現存株数別のメッシュ数

10未満	9
50未満	8
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	1
10,000以上	0
絶滅	8
未発見	19
不明	13

マメ科
シバナム

DD(情報不足)[新規掲載]

Smithia ciliata

形態と生育環境

日当たりのよい砂地の原野に生える1年草。立ち上がるか地をはい、高さ15-50cm。小葉は6-14枚あり、狭倒卵形、長さ5-12mm、裏面と縁にまばらに剛毛がある。花は淡黄色、長さ10mm。短い総状花序につき、節果は節で折りたたまれ、萼中にある。本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布する。

判定理由 <判定基準:->

九州では多産する可能性があるが、それ以外の西日本ではまれと思われる。

現存株数別のメッシュ数

10未満	1
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

トウダイグサ科
ツシマカンコノキ

DD(情報不足)[新規掲載]

Glochidion puberum

形態と生育環境

海岸近くの疎林に生える落葉小高木または低木。高さ1-3m、小枝には毛が密生する。葉は互生し、披針状楕円形または楕円形、先は鈍形で微突端になることが多く、長さ5-6cm、幅2-3cm、全縁、裏面は軟毛が密生する。雄花、雌花の萼片には毛が密生する。さく果は扁球形で、毛を密生し、長さ4-5mm、幅10-15mm。長崎県（対馬）に分布する。

判定理由 <判定基準：->

対馬豆殿において1921年に採集された標本があるが、近年の生育が確認されていない。1979年に対馬巖原で採集された標本が本種にあたる可能性が高いが、最近の現地調査において確認できず、現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

シナノキ科
エチゴボダイジュ

DD(情報不足)[新規掲載]

Tilia mandshurica var. *toriana*

形態と生育環境

マンシュウボダイジュ (*T. mandshurica*) に似るが、若い枝や葉柄に短い毛が密に生えるとともに、開出・斜上する長毛が生え、葉身の下面脈上の星状毛が密生する点で異なる。

判定理由 <判定基準：->

新潟県に分布。2005年に新種記載された。株数は少ないと予想されるが、現状不明。今後詳細な調査が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

シナノキ科
カラピンラセンソウ

DD(情報不足)[新規掲載]

Triumfetta semitriloba

形態と生育環境

カジノハラセンソウ (*T. rhomboidea*) に似るが、葉は卵形～卵状円形で果実がやや大きく、果実の刺は有毛である点で区別される。硫黄列島に分布。

判定理由 <判定基準：->

中硫黄島に分布するとされるが、現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

キク科
ウサギソウ

DD(情報不足)[新規掲載]

Ixeris chinensis

形態と生育環境

高さ20-35cmの草本。タカサゴソウ (*I. c.* subsp. *strigosa*) に似るが、茎葉は2-4枚、総苞片長6-8mm、瘦果長4-6mm、花卉は常に黄色、根は分岐する点で異なる。

判定理由 <判定基準：->

小笠原諸島父島、沖縄島での採集記録がある。今回の調査では自生を確認できず、現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

ユリ科

DD(情報不足)[新規掲載]

マルバオウセイ

*Polygonatum trichosantherum***形態と生育環境**

高さ60cm以上、茎は円柱形、無毛。葉は長卵形～披針状卵形で長さ7.5-13.5cm、幅2.5-5.5cm、下面はやや粉白を帯び、アマドコロ (*P. odoratum*) に似る。花は3-4個、長さ約18mm、無毛、梗は無毛。花糸は葯よりも長い。長崎県の野母岬の近くの山地に自生するとされる。

判定理由 <判定基準：->

本調査では確実な自生が確認されず、現状不明。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	1

ラン科

DD(情報不足)[新規掲載]

ムラサキムヨウラン

*Lecanorchis purpurea***形態と生育環境**

常緑広葉樹林下に生える。クロムヨウラン (*L. nigricans*) に似るが、茎が繊細で分枝し、高さ15-30cm。花色がクロムヨウランよりも鮮やかな紫色。花期は5-7月。九州南部、屋久島、琉球に分布する。

判定理由 <判定基準：->

実体が不明の分類群であり、分類学的実体も含め今後の調査が必要。

現存株数別のメッシュ数

10未満	0
50未満	0
100未満	0
1,000未満	0
10,000未満	0
10,000以上	0
絶滅	0
未発見	0
不明	0

和名索引

アオイカズラ	VU	50	オキナワイ	CR	15
アオカズラ	EN	25	オキナワヒメラン	CR	19
アオナシ	VU	41	オクタマシダ	VU	37
アサマスケ	NT	60	オクタマツリスゲ	CR	16
アシノクラアザミ	EN	28	オナモミ	VU	49
アズマツメクサ	NT	57	オニイノデ	VU	37
アソタイゲキ	EN	24	オニツクバネウツギ	CR	13
アタシカカナワラビ	CR	3	オノエテンツキ	VU	54
アポイカラマツ	VU	40	カイサカネラン	CR	19
アマミカジカエデ	CR	9	カサモチ	CR	11
アマミクラマゴケ	VU	35	ガッサントリカブト	VU	39
アマミタチドコロ	CR	14	カラピンラセンソウ	DD	62
アマミタムラソウ	EN	27	カラフトアザミ	VU	49
アマミナツトウダイ	CR	8	カワチスズシロソウ	VU	40
アラガタオオサンキライ	EN	30	カワリバアマクサシダ	VU	36
アワガタケスミレ	NT	58	カンダヒメラン	EN	34
イイデトリカブト	CR	5	キイウマノミツバ	CR	11
イオウノボタン	VU	43	キクタニギク	NT	59
イシガキイトテンツキ	EX	3	キタメヒシバ	EN	31
イシガキキヌラン	VU	56	キナンカンアオイ	VU	40
イシヅチカラマツ	CR	6	キバナホウチャクソウ	CR	14
イズノシマホシクサ	VU	51	ギボウシラン	EN	33
イソスミレ	VU	42	キリシマイワヘゴ	CR	4
イツキカナワラビ	EN	20	クサタチバナ	NT	58
イトハコベ	VU	38	クモイコゴメグサ	EX	2
イヌカモジグサ	EN	31	クロイヌノヒゲ	NT	60
イヌタヌキモ	NT	58	クロクモキリソウ	EN	34
イブキトボシガラ	VU	51	コウズシマクラマゴケ	NT	56
イモラン	EN	33	コウライスズムシソウ	EN	34
イヤリトリカブト	CR	5	コウライワニグチソウ	EN	30
ウサギソウ	DD	62	コゴメカラマツ	EN	22
ウスバシケシダ	VU	37	コシキイトラッキョウ	EN	29
ウラホロイチゲ	VU	39	コシキギク	VU	47
エゾノダツタンコゴメグサ	CR	13	コシキジマハギ	EN	24
エゾムギ	CR	15	コトウカンアオイ	EN	23
エチゴボダイジュ	DD	62	コニシハイノキ	EN	25
エビガラシダ	VU	36	コバナガンクビソウ	VU	48
エンシュウツリフネソウ	VU	42	コバノクスドイゲ	CR	10
オオイソノギク	CR	13	ゴマノハグサ	VU	46
オオクリハラン	VU	38	サガミメドハギ	EX	2
オオシケシダ	NT	57	ササバラン	EN	34
オオシマノジギク	VU	48	サドアザミ	VU	48
オオタヌキモ	NT	59	シオミイカリソウ	NT	57
オオバカンアオイ	EN	23	シコクフクジュソウ	VU	39
オオバヨモギ	EN	28	シナノショウキラン	EN	35
オオホウキガヤツリ	CR	17	シバナム	DD	61
オオミクリ	VU	52	シマイガクサ	EN	33
オオモクセイ	EN	26	シマウツボ	EN	27
オガアザミ	VU	48	シマギョクシンカ	VU	45
オガコウモリ	VU	49	シマザクラ	VU	45

シマササバラシ	VU	55	ハチジョウカナワラビ	EN	21
シモツケコウホネ	CR	6	ハナヤマツルリンドウ	EN	26
シヤクナンガンピ	VU	42	ハハジマヌカボシ	VU	38
シロエゾホシクサ	VU	50	ハマウツボ	VU	47
シロコスミレ	CR	10	ハマクワガタ	VU	46
シロテンマ	CR	18	ハマサワヒヨドリ	VU	49
シロホンモンジスゲ	CR	16	ハマタマボウキ	EN	30
スイシャホシクサ	CR	15	ハマトラノオ	VU	46
スエヒロアオイ	CR	6	ハマネナシカズラ	VU	45
セイタカヌカボシソウ	EN	31	ハラヌメリ	CR	15
セトヤナギスブタ	EN	29	ハリナズナ	EN	23
センカクトロロアオイ	CR	10	ヒゴカナワラビ	EN	21
タイシヤクカラマツ	EN	22	ヒメウシノシッペイ	CR	16
ダイトウシロダモ	EN	22	ヒメカイウ	NT	60
ダイトウセイシボク	VU	41	ヒメカンガレイ	VU	54
ダイトウワダン	CR	13	ヒメキカシグサ	CR	11
タイホクスゲ	VU	53	ヒメキクタバヒラコ	EN	28
タイワンカンズゲ	CR	16	ヒメシシラン	VU	36
タイワンハマサジ	CR	11	ヒメシラヒゲラン	CR	20
タチガヤツリ	EX	3	ヒメスズムシソウ	CR	19
タネガシマアザミ	EN	28	ヒメタデ	VU	38
タンゴグミ	CR	10	ヒメトキホコリ	EN	21
チイサンウシノケグサ	VU	51	ヒメノヤガラ	VU	54
チシマイチゴ	CR	7	ヒメホウキガヤツリ	CR	17
チチジマナキリスゲ	EN	32	ヒメホウビシダ	NT	56
チトセカズラ	VU	44	ビロードキビ	EN	31
チドリケマン	VU	40	ヒロハスギナモ	VU	43
ツクシゴメグサ	EN	27	ヒロハノカワラサイコ	VU	41
ツシマカンコノキ	DD	62	フキヤミツバ	EN	25
ツルカコソウ	EN	27	フクド	NT	59
ツルマンリョウ	NT	58	フサカンズゲ	VU	53
テバコワラビ	NT	56	フササジラン	EN	20
テリハニシキソウ	CR	8	フナバラソウ	VU	44
トウカテンソウ	CR	4	ボウコツルマメ	CR	7
トウゴクヘラオモダカ	EN	29	ホザキマスクサ	VU	53
トカチビランジ	CR	5	ホシザクラ	CR	7
トカラカンズゲ	VU	52	ホソバシロスミレ	VU	42
トカラノギク	NT	59	ホソバハマセンダン	CR	9
トクノシマエビネ	EN	33	ホソバヘラオモダカ	CR	14
トチカガミ	NT	60	ホソフデラン	CR	18
トックリスゲ	CR	17	マツバニンジン	CR	8
ドナンコバンノキ	CR	9	マツラコメグサ	EX	2
ナガバノウナギツカミ	NT	57	マツラン	VU	55
ナンゴクモクセイ	VU	44	マメダオシ	CR	12
ヌマクロボスゲ	VU	53	マルバアサガオガラクサ	EN	26
ヌマドジョウツナギ	VU	51	マルバオウセイ	DD	63
ノタヌキモ	VU	47	マルバヌカイタチシダモドキ	CR	4
ノヒメユリ	EN	30	ミカワコケシノブ	EN	20
バアソブ	VU	47	ミズオオバコ	VU	50
ハイツメクサ	EN	22	ミチノクナシ	CR	7
ハクチョウゲ	EN	26	ミドリアカザ	CR	5
ハタベカンガレイ	VU	54	ミドリシヤクジョウ	EX	2
ハタベスゲ	EN	32	ミヤココケリンドウ	CR	12

ミヤマイワスゲ	VU	52	ヤクシマカンスゲ	NT	61
ミヤマムギラン	NT	61	ヤクシマグミ	EN	25
ミョウギシダ	EN	21	ヤクシマシソバタツナミ	VU	45
ムカゴソウ	NT	61	ヤクシマシライトソウ	VU	50
ムギガラガヤツリ	CR	17	ヤクシマシロバナヘビイチゴ	EN	24
ムニンエダウチホングウシダ	VU	35	ヤクシマトウヒレン	EN	29
ムニンシダ	VU	36	ヤクシマトンボ	CR	19
ムニンタツナミソウ	VU	46	ヤクシマフウロ	CR	8
ムニンハマウド	VU	43	ヤクシマミツバツツジ	VU	43
ムニンヒョウタンスゲ	EN	32	ヤクシマヤمامグラ	VU	44
ムニンヤツシロラン	VU	55	ヤブザクラ	EN	24
ムラサキベニシダ	VU	37	ユワンツチトリモチ	CR	4
ムラサキベンケイソウ	VU	41	ラウススゲ	EN	32
ムラサキムヨウラン	DD	63	リシリヒナゲシ	EN	23
メヘゴ	VU	35	ルズンヤマノイモ	CR	14
モイワラン	CR	18	ルリハッカ	CR	12
モミラン	VU	55	ロッカクイ	CR	18
ヤエヤマハマゴウ	CR	12	ワガトリカブト	VU	39
ヤエヤマヒメウツギ	CR	6	ワダツミノキ	CR	9
ヤエヤマホラシノブ	CR	3	ワンドスゲ	VU	52

改訂レッドリスト 付属説明資料

植物 I (維管束植物)

平成 22 年 3 月

編集・発行 環境省自然環境局野生生物課

エコマーク認定の再生紙を使用しています。(古紙含有率 100%)